

第2章

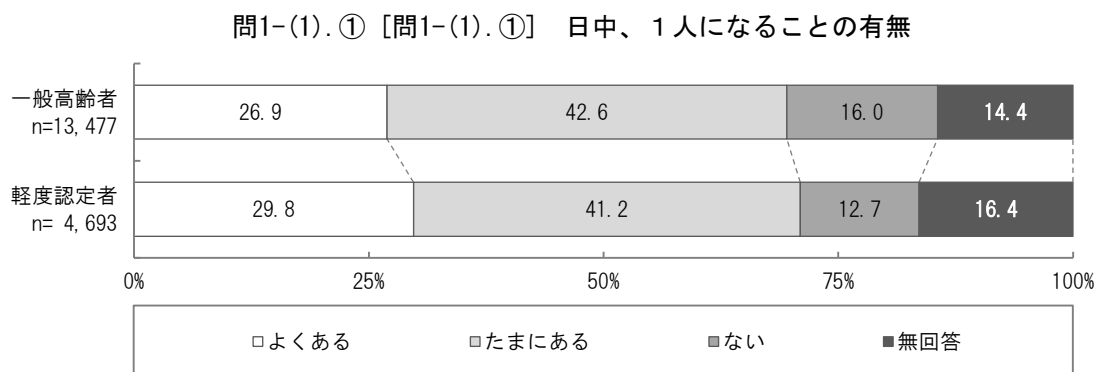
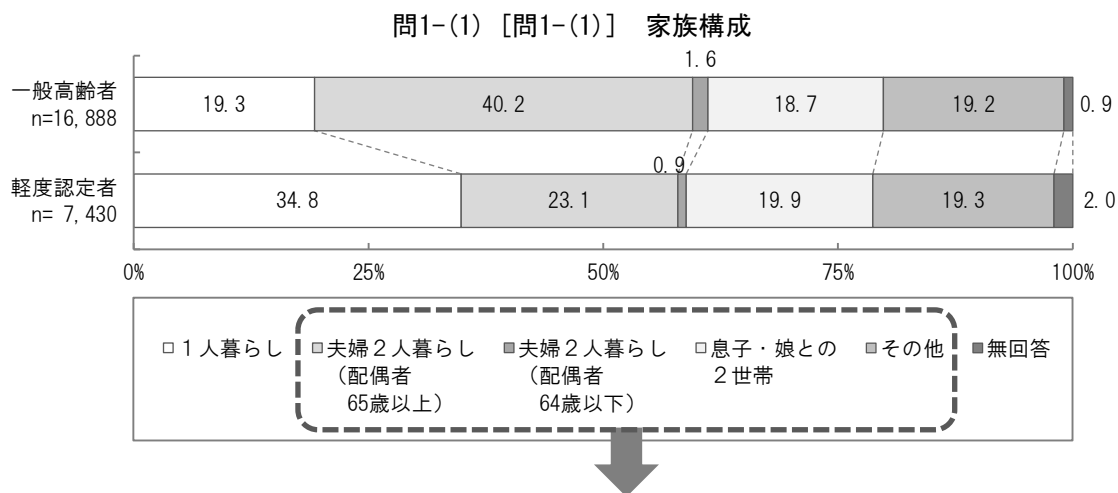
後期高齢者実態把握調査結果

第2章 後期高齢者実態把握調査結果

1 あなたのご家族や生活状況について

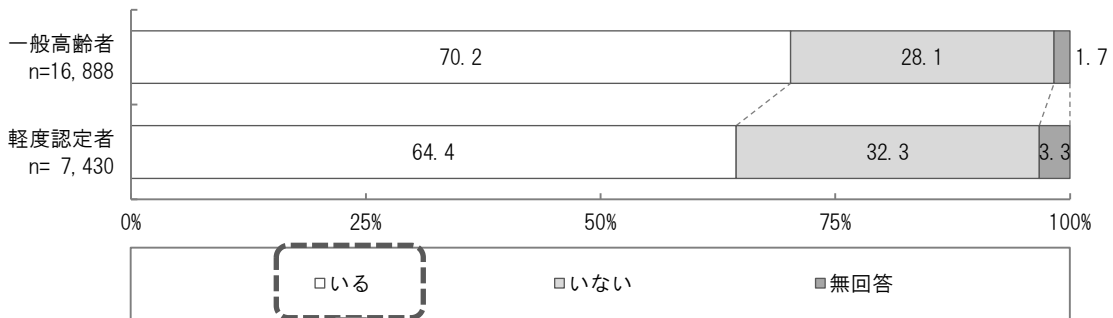
(1) 家族構成

- 家族構成をみると、一般高齢者は「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（40.2%）が最も高く、次いで「1人暮らし」（19.3%）の順となっています。
- 一方、軽度認定者は「1人暮らし」（34.8%）が最も高く、次いで「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」（23.1%）となっています。
- 日中1人になる一般高齢者は、「よくある」（26.9%）と「たまにある」（42.6%）を合わせた69.5%となっています。一方、軽度認定者は「よくある」（29.8%）と「たまにある」（41.2%）を合わせた71.0%が日中1人になると回答しています。

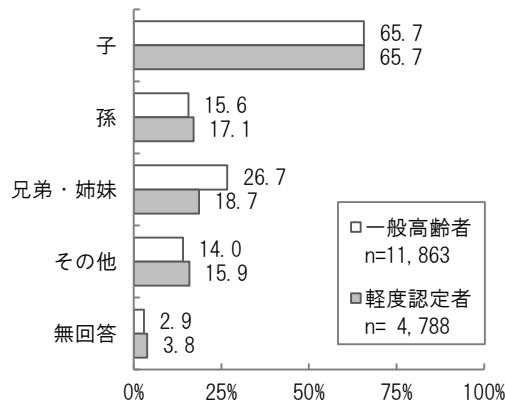


- 概ね30分以内に駆けつけることができる近居の親族が「いる」一般高齢者は70.2%、軽度認定者は64.4%となっています。
- 近居の親族との間柄をみると、一般高齢者・軽度認定者ともに「子」(各65.7%)が最も高く、次いで「兄弟・姉妹」(26.7%・18.7%)、「孫」(15.6%・17.1%)の順となっています。
- 近居の親族と会う頻度は、一般高齢者・軽度認定者ともに「月1～3日」(26.5%・22.6%)が最も高く、次いで「週2～4日」(20.0%・21.5%)、「週1日」(18.1%・19.7%)の順となっています。

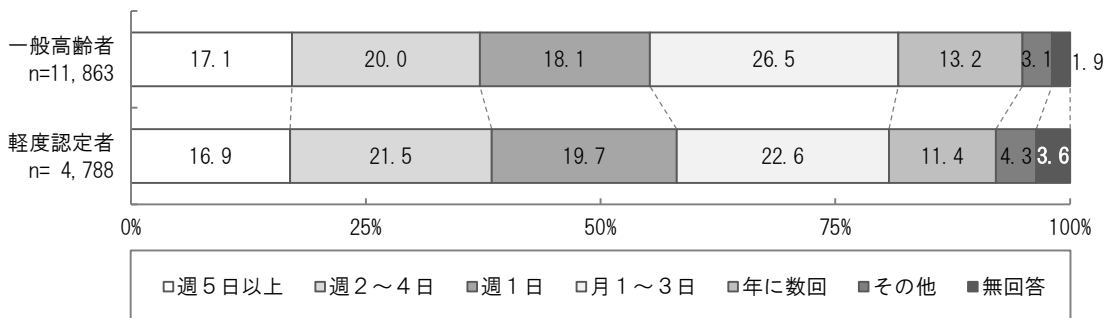
問1-(2) [問1-(2)] 近居の親族の有無



問1-(2).① [問1-(2).①] 近居の親族との間柄



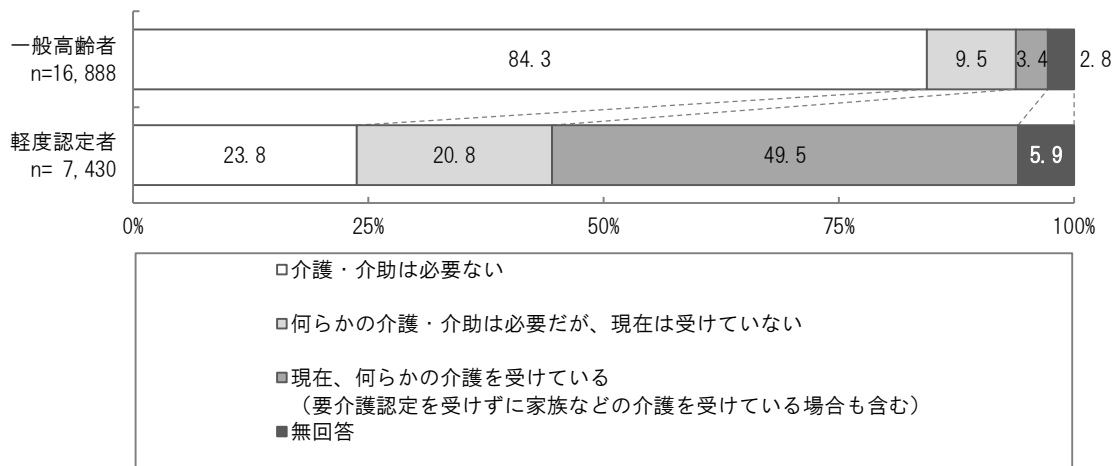
問1-(2).② [問1-(2).②] 近居の親族と会う頻度



(2) 日常生活における介護（介助）の有無

- 一般高齢者の普段の生活における介護・介助の必要性について、「介護・介助は必要ない」と回答した方は84.3%となっています。
- 一方、軽度認定者をみると、「現在、何らかの介護を受けている（要介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）」（49.5%）が最も高く、次いで「介護・介助は必要ない」（23.8%）、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」（20.8%）となっています。

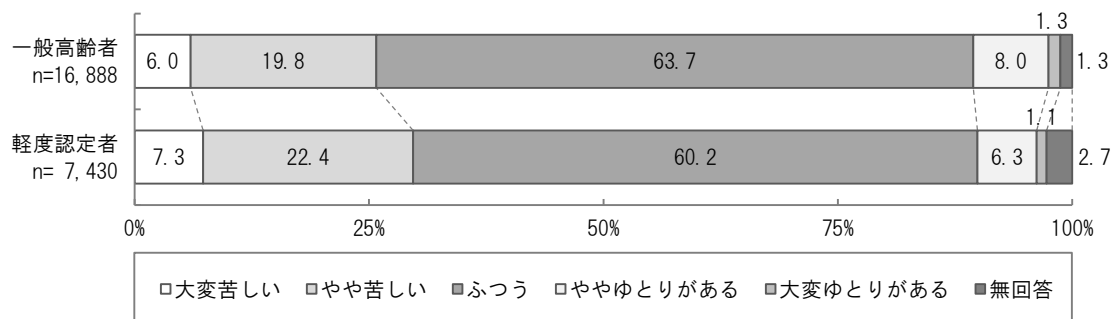
問1-(3) [問1-(3)] 普段の生活で介護・介助が必要か



(3) 現在の経済状況

- 現在の暮らしの経済的状況について、「ふつう」と回答した割合が一般高齢者・軽度認定者ともに6割を超え高くなっています。また、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた経済的に苦しいと回答した一般高齢者は25.8%、軽度認定者は29.7%となっています。

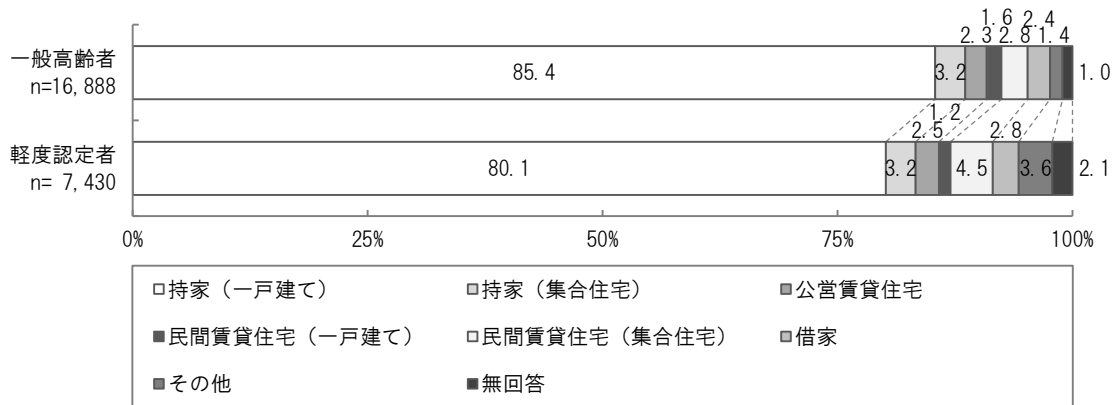
問1-(4) [問1-(4)] 現在の暮らしの状況を経済的にみて



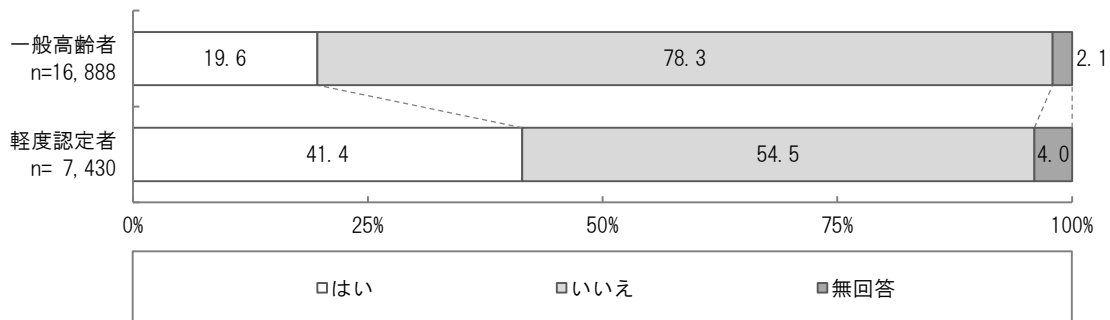
(4) 現在の居住環境

- 現在の住まいについて、一般高齢者・軽度認定者ともに「持家（一戸建て）」（85.4%・80.1%）が最も高く、次いで一般高齢者は「持家（集合住宅）」（3.2%）、軽度認定者は「民間賃貸住宅（集合住宅）」（4.5%）となっています。
- 自宅内の段差や階段で困っている箇所がある一般高齢者は19.6%、軽度認定者は41.4%となっています。

問1-(5) [問1-(5)] 現在の暮らしている家の状況



問1-(6) [問1-(6)] 自宅内で段差や階段で困っている箇所はあるか



【掘り下げ分析】居住環境別にみた自宅内で困っている箇所の有無

- 居住環境別に自宅内で困っている箇所の有無をみると、「あり（はい）」は一般高齢者では『その他』（26.8%）、『借家』（24.4%）で高く、軽度認定者では『民間賃貸住宅（一戸建て）』（46.7%）、『持家（一戸建て）』（44.6%）で高くなっています。

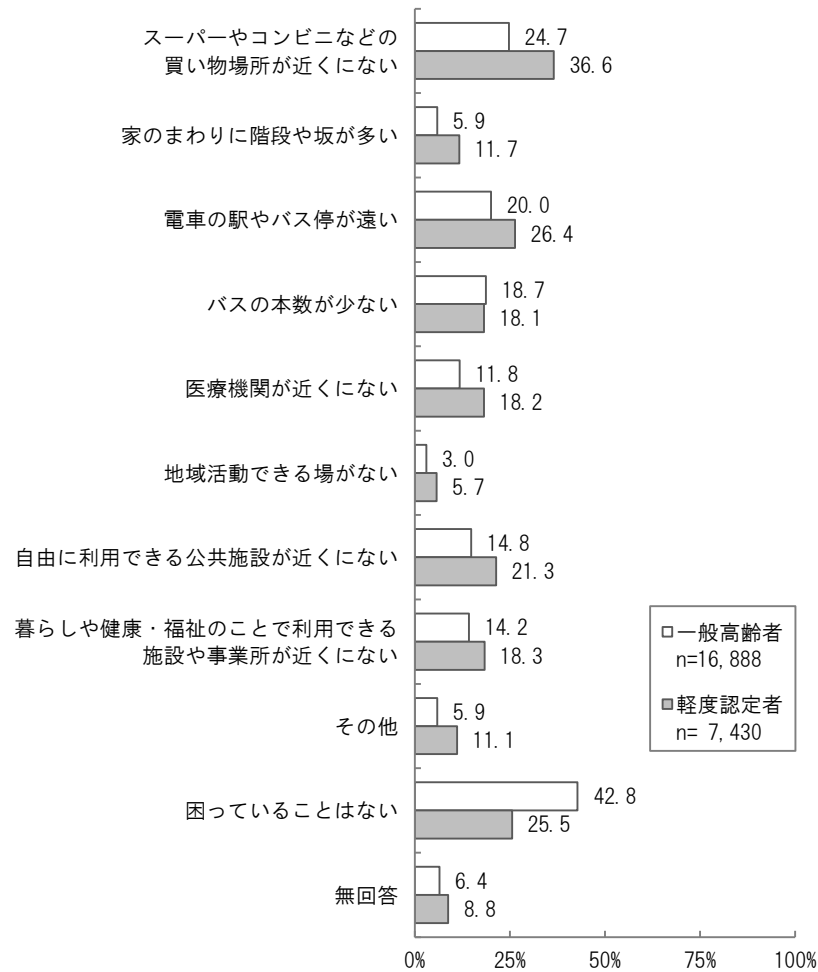
単位：%

困っている箇所の有無		居住環境						
		持家（一戸建て）	持家（集合住宅）	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅（一戸建て）	民間賃貸住宅（集合住宅）	借家	その他
一般高齢者	あり(はい)	19.8	10.4	22.2	19.0	18.9	24.4	26.8
	なし(いいえ)	78.9	88.5	74.9	80.2	79.4	72.8	69.7
軽度認定者	あり(はい)	44.6	23.2	39.9	46.7	31.3	40.5	19.7
	なし(いいえ)	53.5	74.7	57.9	51.1	65.7	56.1	70.8

※各調査で居住環境ごとにみた自宅内で困っている箇所の有無の割合です。
 ※無回答者がいるため、あり(はい)・なし(いいえ)を合わせても100%にはなりません。

- 一般高齢者の現在、住んでいる環境で困っていることや不満な点を見ると、「困っていることはない」(42.8%)が最も高く、次いで「スーパーやコンビニなどの買い物場所が近くにない」(24.7%)、「電車の駅やバス停が遠い」(20.0%)となっています。
- 一方、軽度認定者は「スーパーやコンビニなどの買い物場所が近くにない」(36.6%)が最も高く、次いで「電車の駅やバス停が遠い」(26.4%)、「困っていることはない」(25.5%)となっています。

問1-(7) [問1-(7)] 現在、住んでいる環境で困っていることや不満な点

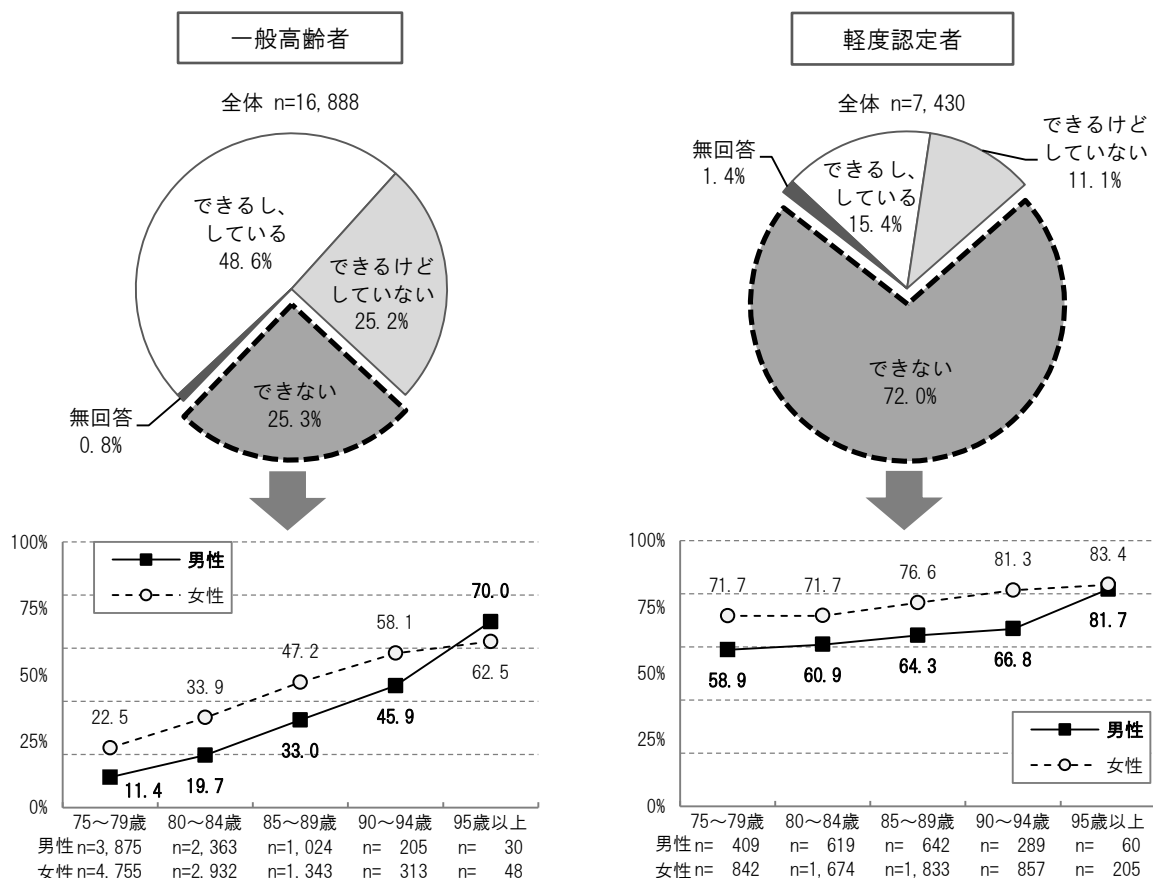


2 からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

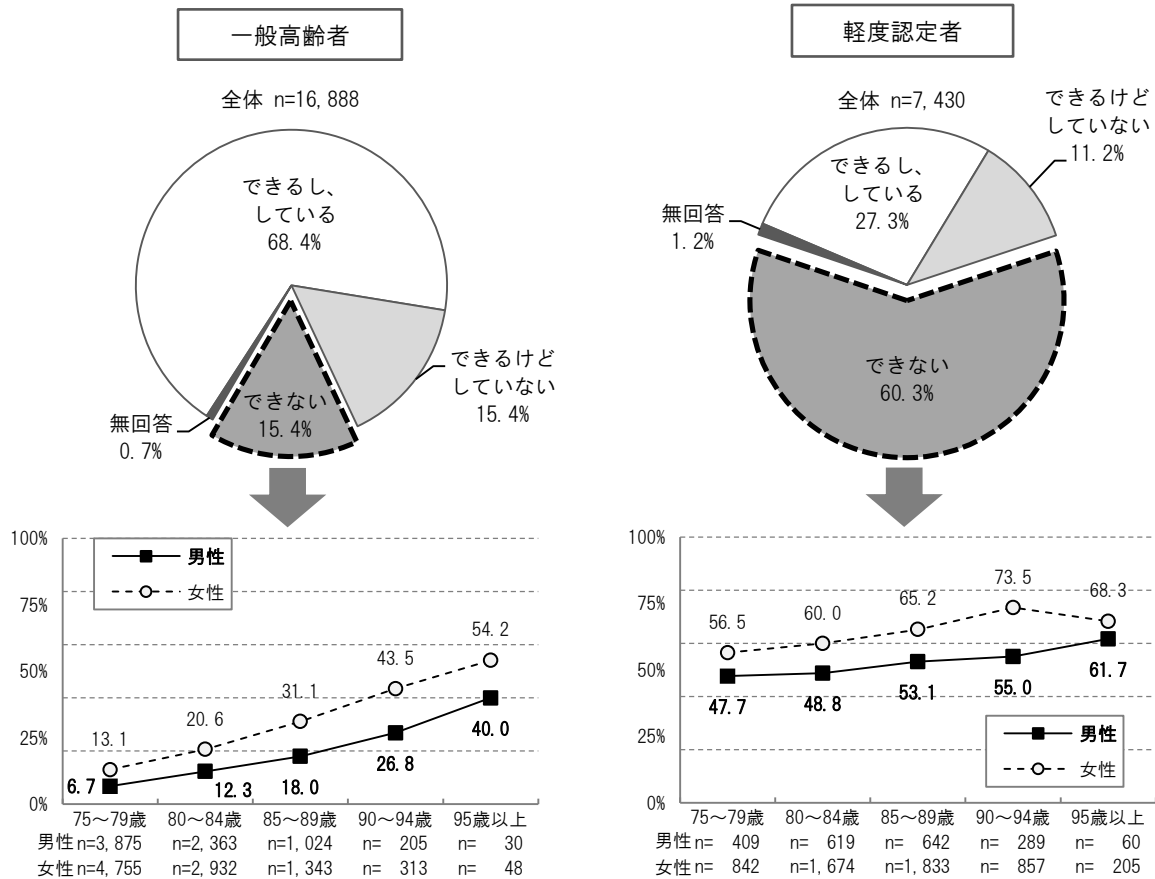
- 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることが「できない」一般高齢者は25.3%となり、加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は72.0%が「できない」と回答し、全ての年齢階級で女性の割合が男性を上回っています。

問2-(1) [問2-(1)] 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



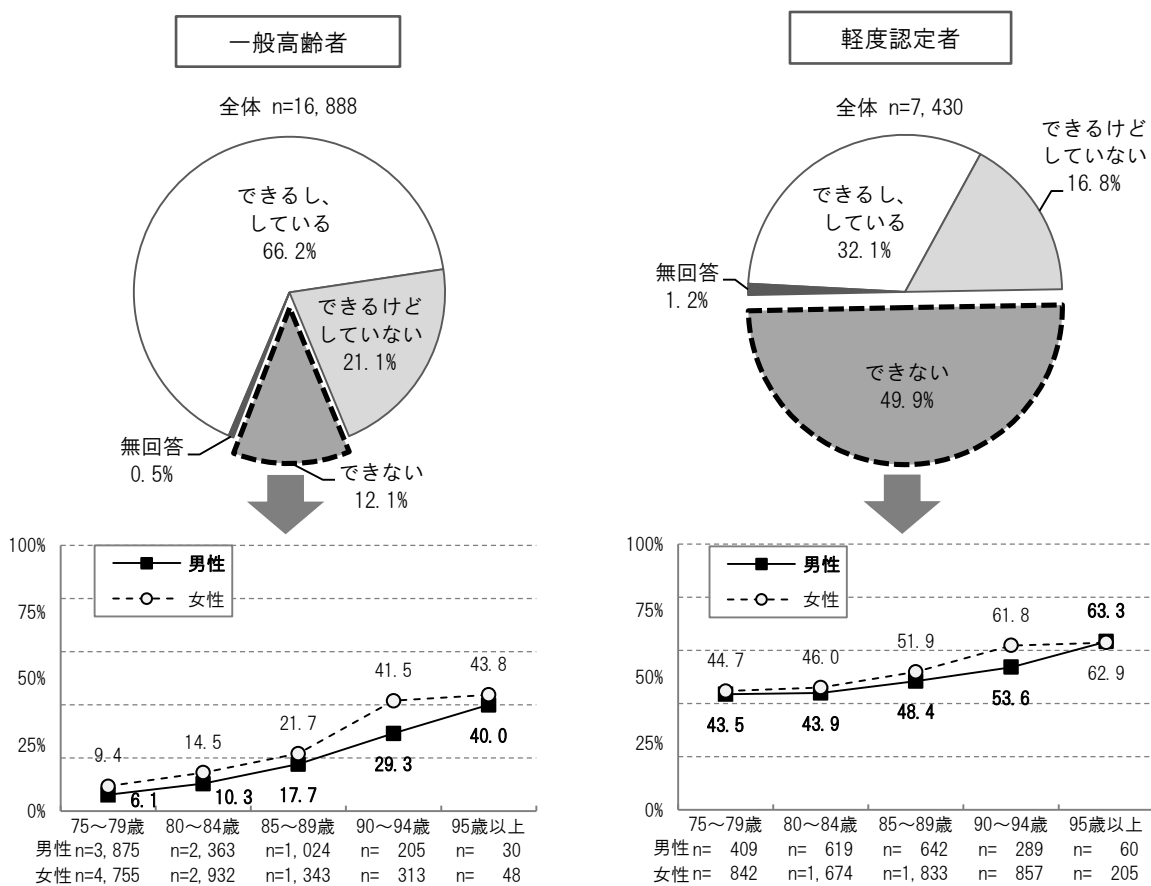
- 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることが「できない」一般高齢者は15.4%となり、加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は60.3%が「できない」と回答し、女性の90～94歳で割合が高くなっています。

問2-(2) [問2-(2)] 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか



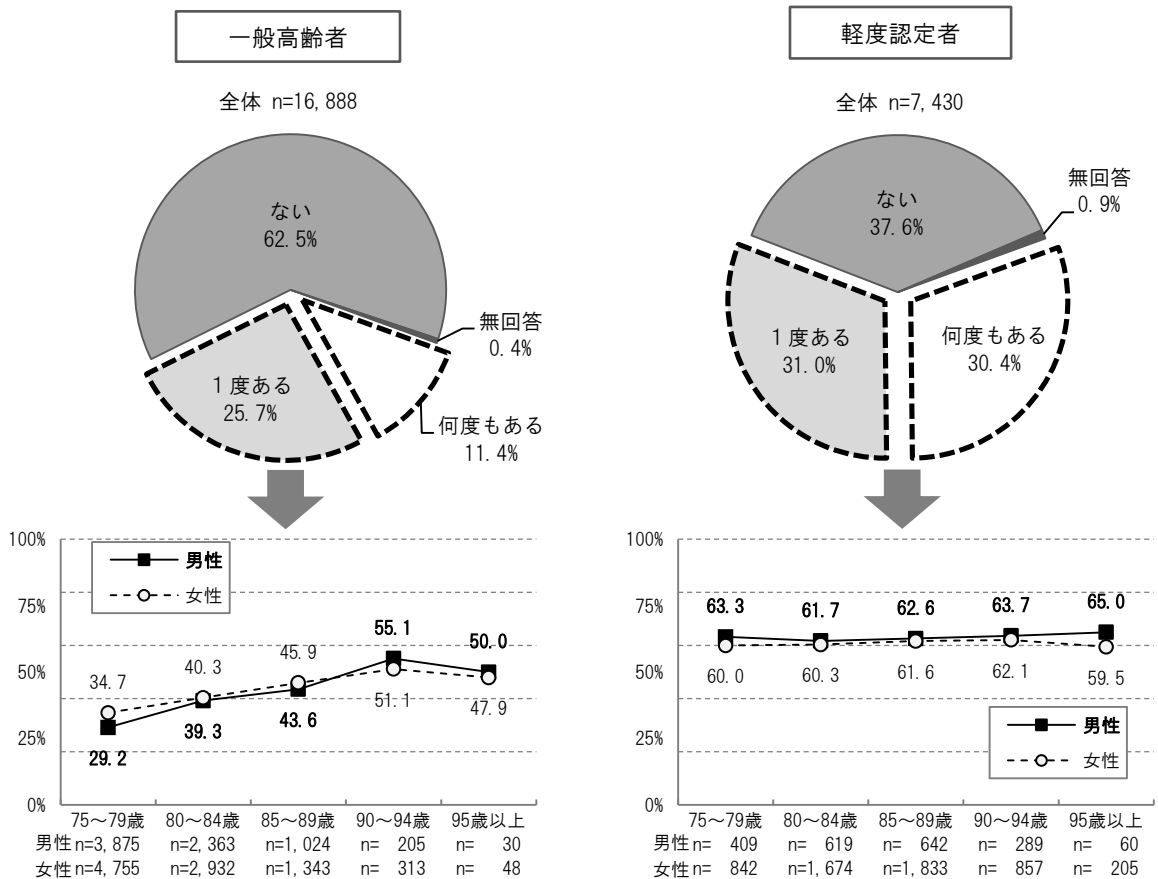
- 15分位続けて歩くことが「できない」一般高齢者は12.1%となり、加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は49.9%が「できない」と回答し、加齢とともに割合が高くなっています。

問2-(3) [問2-(3)] 15分位続けて歩くことができるか



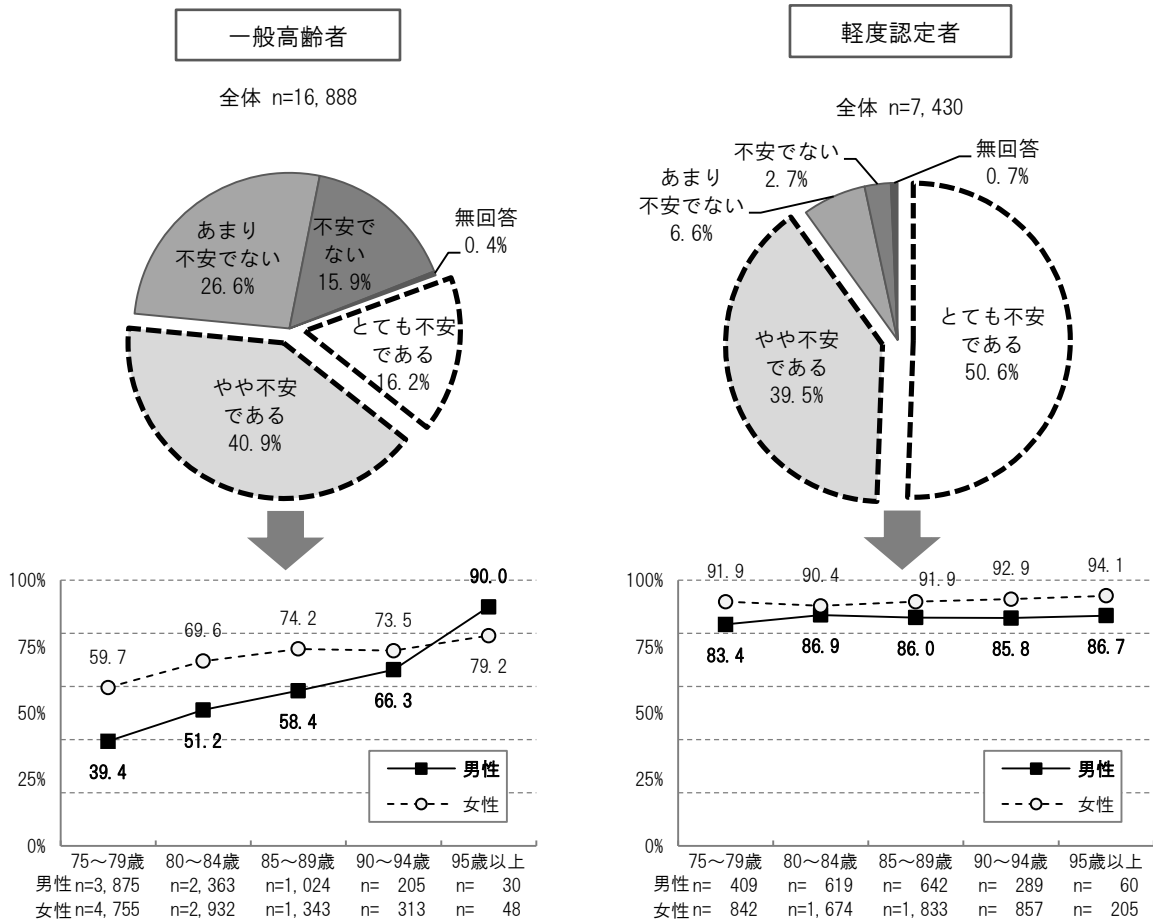
- 過去1年間に転んだ経験がある一般高齢者は、「何度もある」(11.4%)と「1度ある」(25.7%)を合わせた37.1%となり、男女ともに90~94歳で5割を超えています。
- 一方、軽度認定者は「何度もある」(30.4%)と「1度ある」(31.0%)を合わせた61.4%に過去1年間に転んだ経験があり、男性の割合が女性よりやや高くなっています。

問2-(4) [問2-(4)] 過去1年間に転んだ経験の有無



- 転倒に対する不安がある一般高齢者は、「とても不安である」(16.2%)と「やや不安である」(40.9%)を合わせた57.1%となり、男性の95歳以上で割合が大きく上昇しています。
- 一方、軽度認定者は「とても不安である」(50.6%)と「やや不安である」(39.5%)を合わせた90.1%に転倒に対する不安があり、女性の割合が男性より高くなっています。

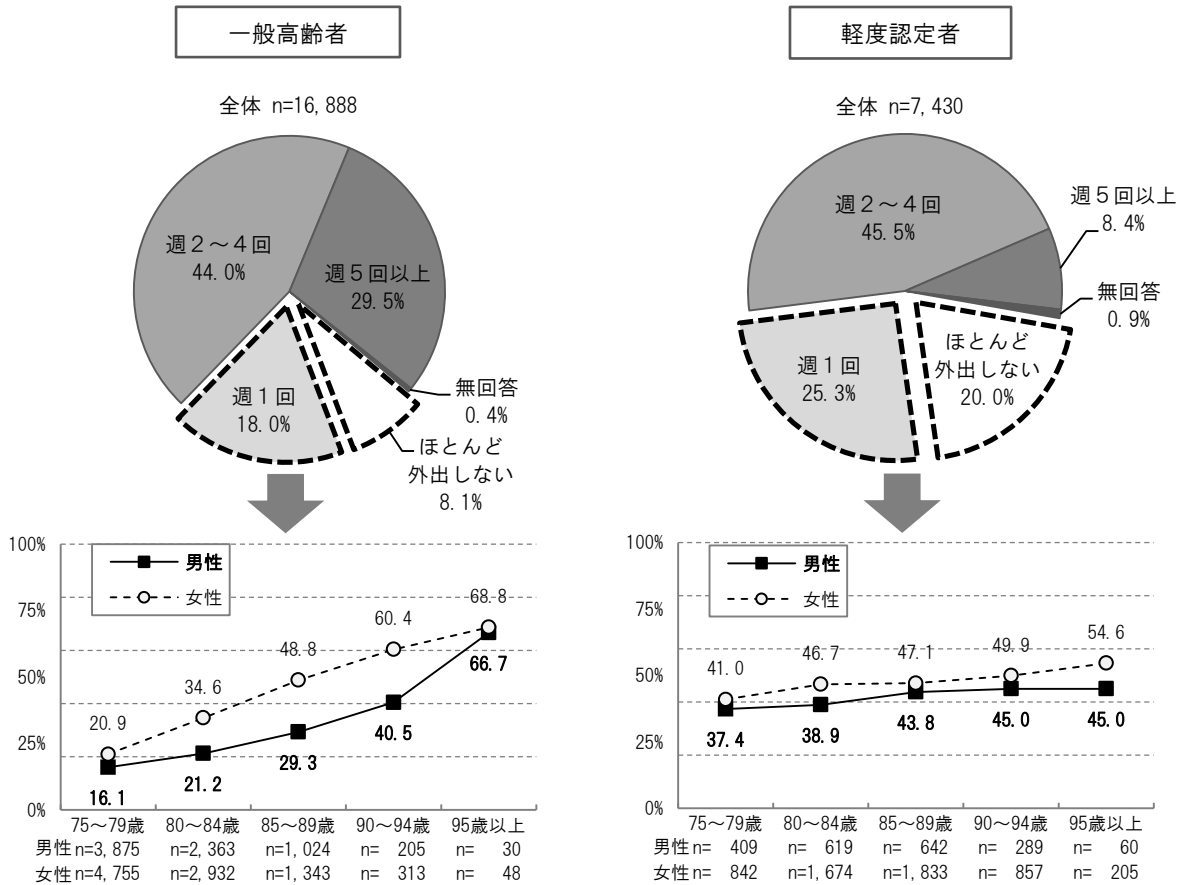
問2-(5) [問2-(5)] 転倒に対する不安の有無



(2) 外出の状況

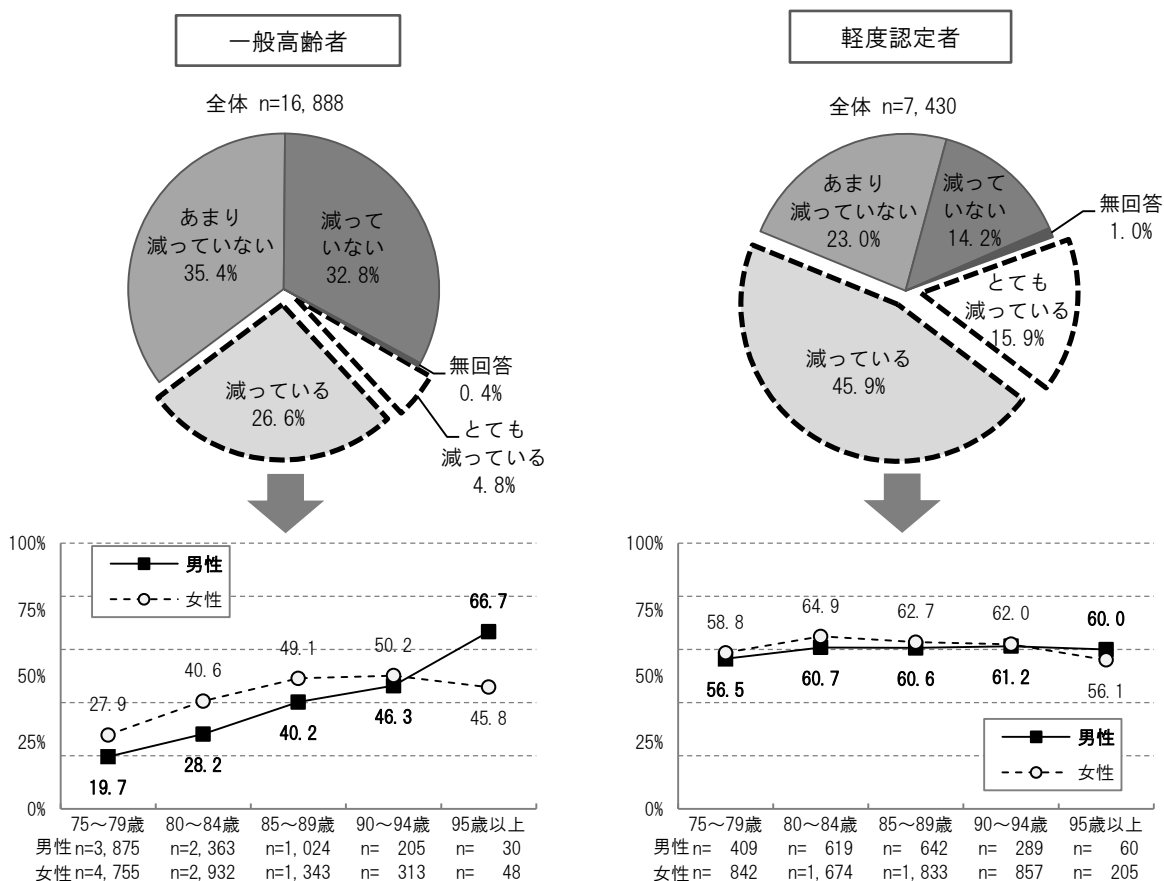
- 週に1回以上の外出について、外出頻度が低い傾向にある一般高齢者は「ほとんど外出しない」(8.1%)と「週1回」(18.0%)を合わせた26.1%となり、加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は「ほとんど外出しない」(20.0%)と「週1回」(25.3%)を合わせた45.3%に外出頻度が低い傾向がみられ、加齢とともに割合が高くなっています。

問2-(6) [問2-(6)] 週に1回以上の外出の有無



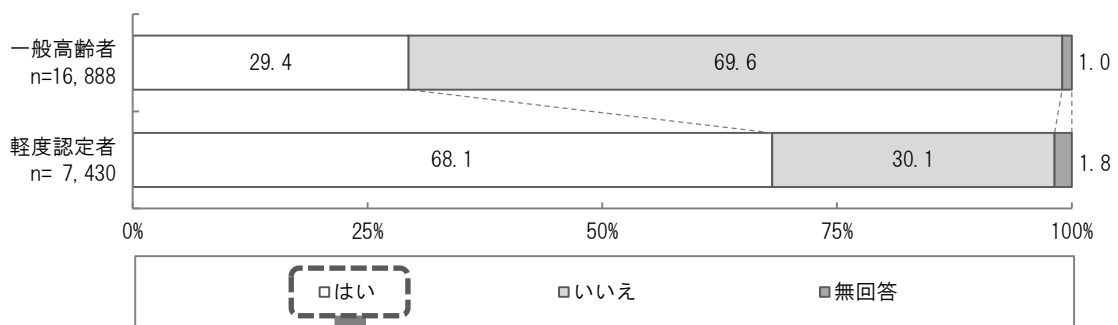
- 昨年と比べ外出回数が減少傾向にある一般高齢者は、「とても減っている」(4.8%)と「減っている」(26.6%)を合わせた31.4%となり、男性の95歳以上で割合が大きく上昇しています。
- 一方、軽度認定者は「とても減っている」(15.9%)と「減っている」(45.9%)を合わせた61.8%が減少傾向にあり、男性は90~94歳、女性は80~84歳で割合が高くなっています。

問2-(7) [問2-(7)] 昨年と比べた外出の回数

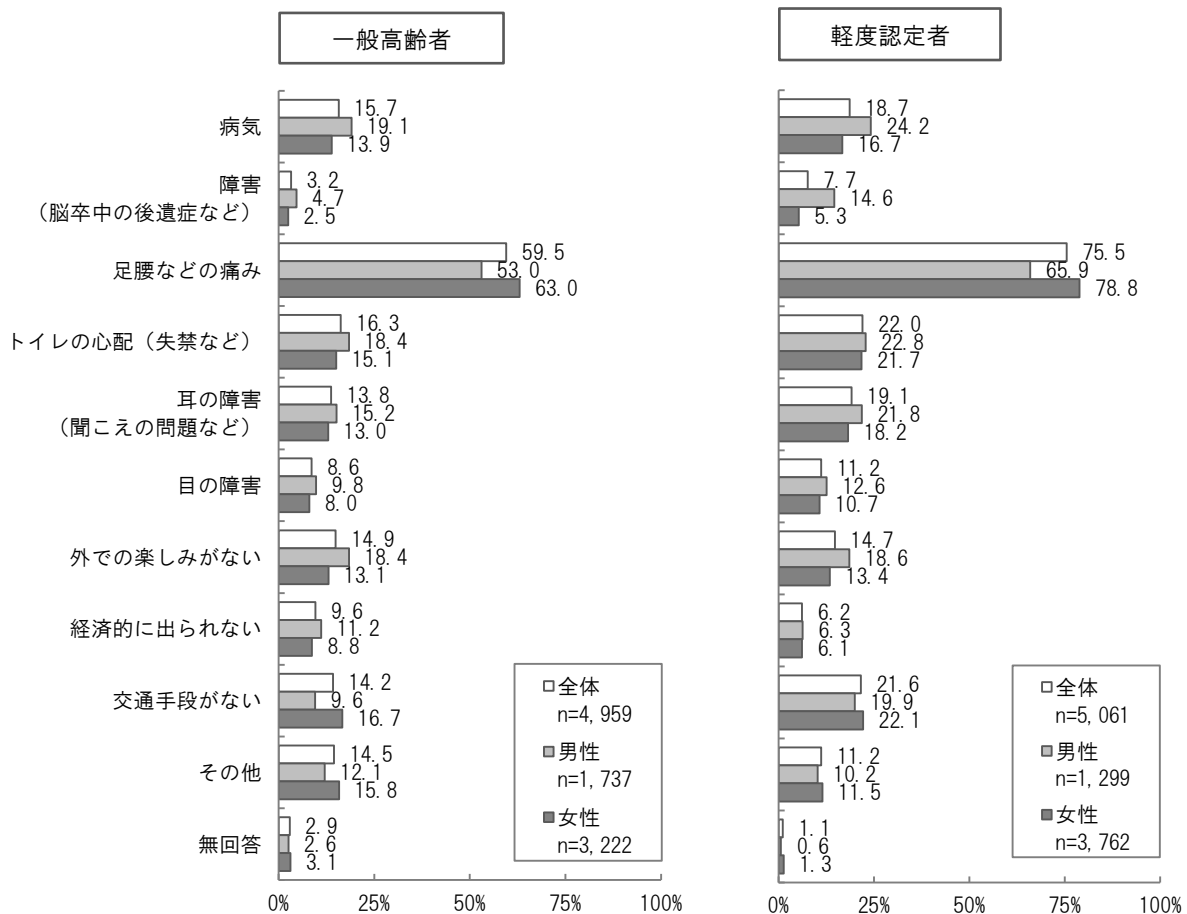


- 外出を控えている一般高齢者は29.4%、軽度認定者は68.1%となっています。
- 一般高齢者の外出を控えている理由をみると、「足腰などの痛み」(59.5%)が最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」(16.3%)、「病気」(15.7%)となっています。また、男女差が大きい項目をみると「足腰などの痛み」(男女差10.0ポイント)、「交通手段がない」(男女差7.1ポイント)では男性より女性で高く、「外での楽しみがない」(男女差5.3ポイント)では女性より男性で高くなっています。
- 一方、軽度認定者は「足腰などの痛み」(75.5%)が最も高く、次いで「トイレの心配(失禁など)」(22.0%)、「交通手段がない」(21.6%)となっています。また、男女差が大きい項目をみると「足腰などの痛み」(男女差12.9ポイント)では男性より女性で高く、「障害(脳卒中の後遺症など)」(男女差9.3ポイント)、「病気」(男女差7.5ポイント)では女性より男性で高くなっています。

問2-(8) [問2-(8)] 外出を控えているか

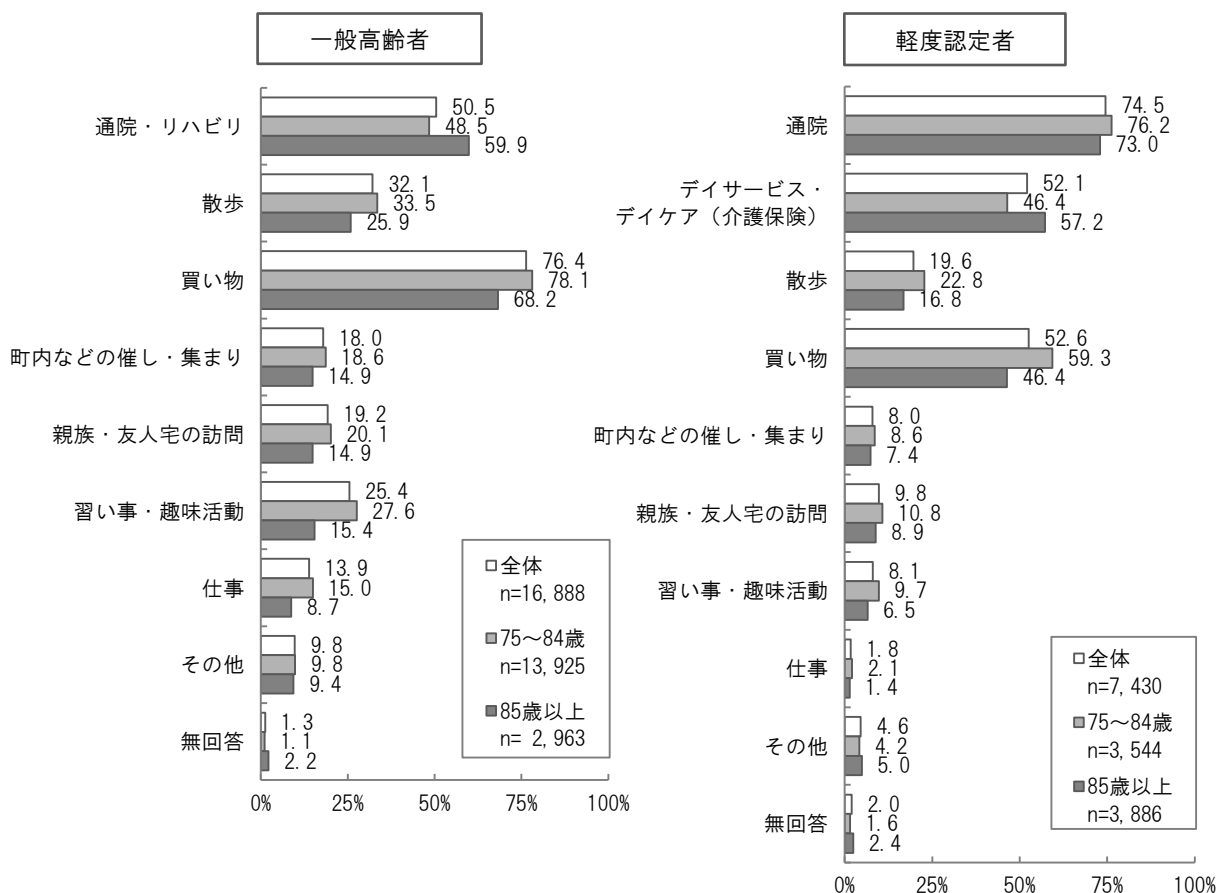


問2-(8).① [問2-(8).①] 外出を控えている理由



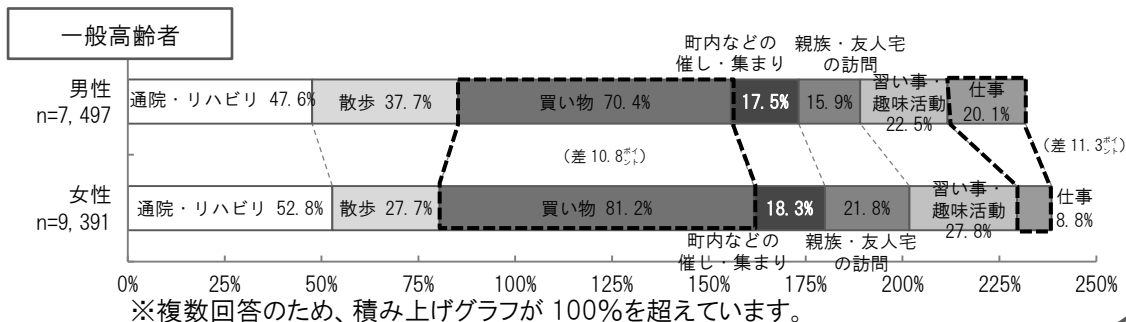
- 一般高齢者の外出の主な目的について、「買い物」(76.4%) が最も高く、次いで「通院・リハビリ」(50.5%)、「散歩」(32.1%)、「習い事・趣味活動」(25.4%) となっています。
- 一方、軽度認定者は「通院」(74.5%) が最も高く、次いで「買い物」(52.6%)、「デイサービス・デイケア(介護保険)」(52.1%)、「散歩」(19.6%) となっています。
- 年齢階級別の差をみると、一般高齢者では「習い事・趣味活動」の乖離が最も大きく、75～84歳(27.6%)が85歳以上(15.4%)を12.2ポイント上回っています。軽度認定者では「買い物」の乖離が最も大きく、75～84歳(59.3%)が85歳以上(46.4%)を12.9ポイント上回っています。

問2-(9) [問2-(9)] 外出の主な目的



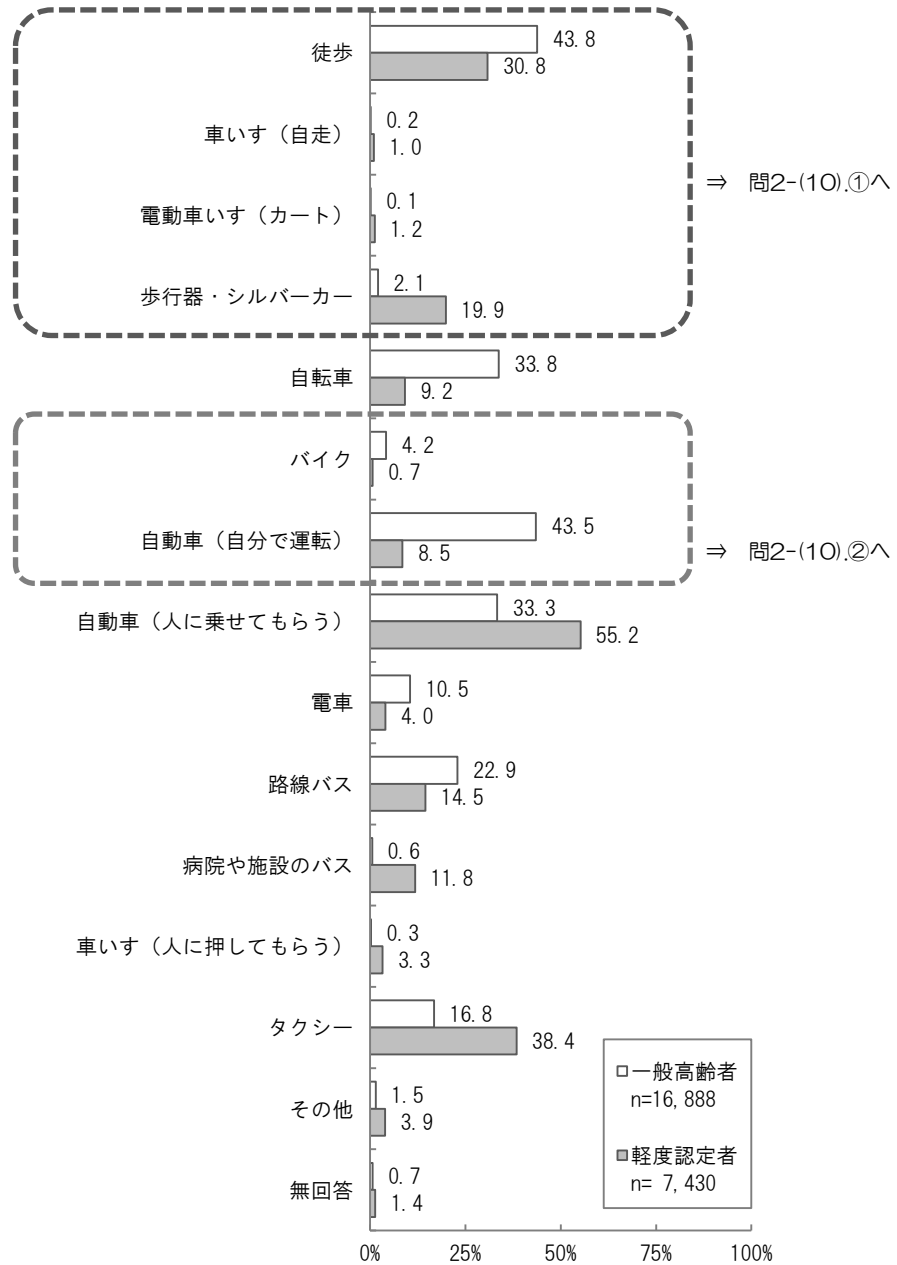
【掘り下げ分析】男女別にみる外出の主な目的

- 外出の主な目的の男女差をみると、「仕事」(男女差 11.3ポイント) で乖離が最も大きく、男性が女性を上回っています。また、2番目に乖離が大きい「買い物」(男女差 10.8ポイント) では女性が男性を上回っています。



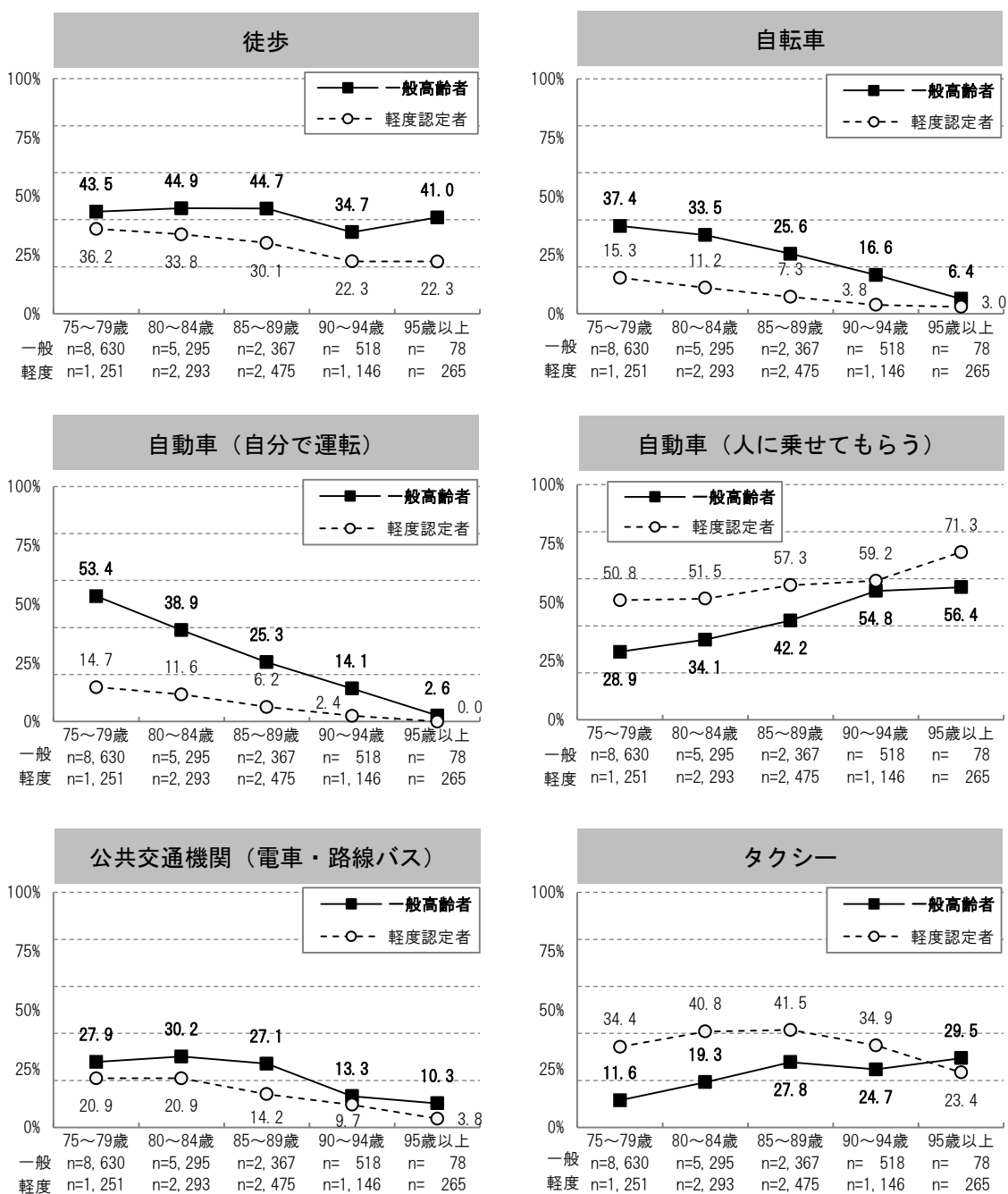
- 一般高齢者の外出する際の移動手段について、「徒歩」(43.8%)が最も高く、次いで「自動車(自分で運転)」(43.5%)、「自転車」(33.8%)となっています。
- 一方、軽度認定者は「自動車(人に乗せてもらう)」(55.2%)が最も高く、次いで「タクシー」(38.4%)、「徒歩」(30.8%)となっています。

問2-(10) [問2-(10)] 外出する際の移動手段

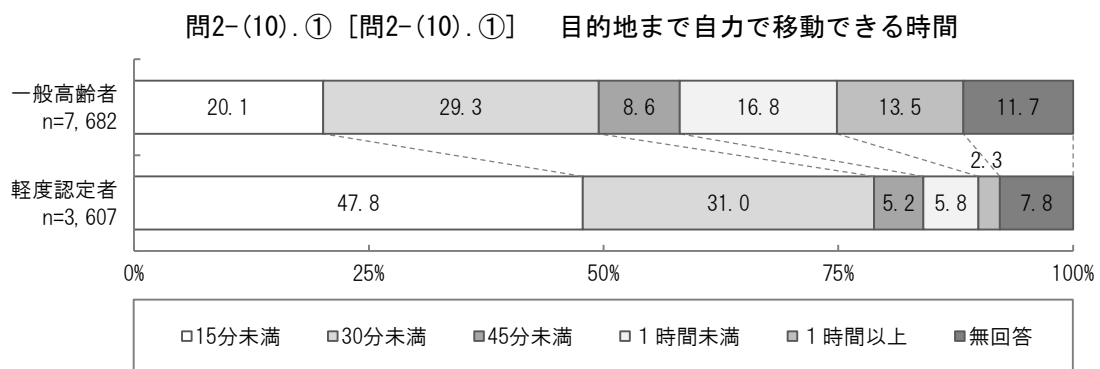


- 外出する際の移動手段をそれぞれ年齢階級別にみると、「徒歩」は、一般高齢者・軽度認定者ともに90～94歳で割合が大きく減少します。
- 「自転車」では、一般高齢者・軽度認定者ともに加齢とともに割合が低くなっています。
- 「自動車（自分で運転）」は、一般高齢者・軽度認定者ともに加齢とともに割合が低くなり、一方で「自動車（人に乗せてもらう）」では、加齢とともに割合が高くなっています。
- 「公共交通機関（電車・路線バス）」では、一般高齢者・軽度認定者ともに85歳以降で割合が減少傾向となっています。
- 「タクシー」では、一般高齢者は加齢とともに割合が高くなり、軽度認定者は85歳以降で割合は減少傾向となっています。

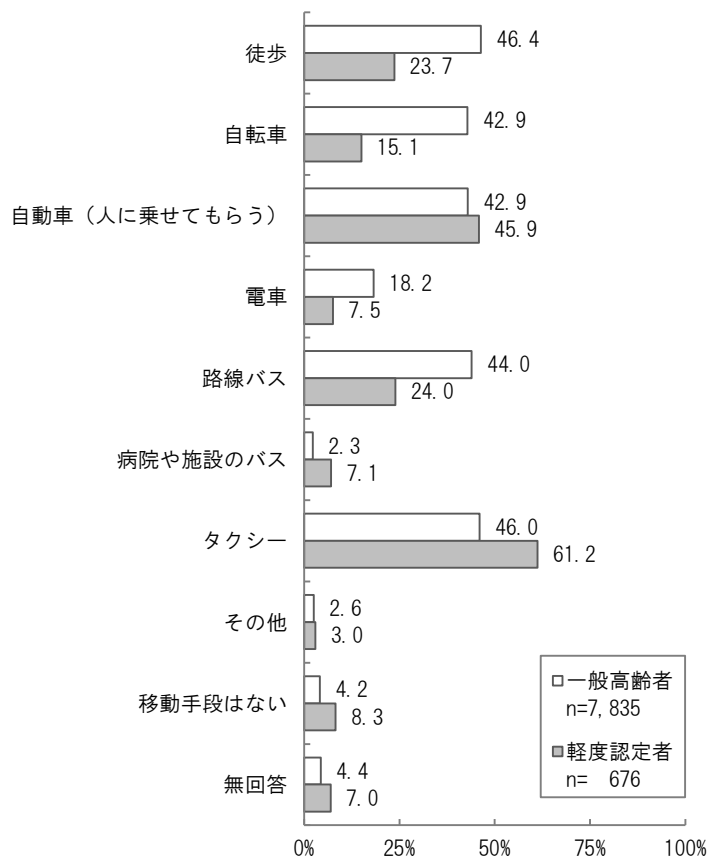
問2-(10) [問2-(10)] 外出する際の移動手段（年齢階級別）



- 外出する際の移動手段で徒歩、車いす（自走）、電動車いす（カート）、歩行器・シルバーカーを選んだ一般高齢者が、目的地まで自力で移動できる時間は、「30分未満」（29.3%）が最も高く、次いで「15分未満」（20.1%）、「1時間未満」（16.8%）となっています。
- 一方、軽度認定者では、「15分未満」（47.8%）が最も高く、次いで「30分未満」（31.0%）、「1時間未満」（5.8%）となっています。
- 外出する際の移動手段で「バイク」、「自動車（自分で運転）」を選んだ一般高齢者が、自分で運転しなくなった場合の移動手段は、「徒歩」（46.4%）が最も高く、次いで「タクシー」（46.0%）、「路線バス」（44.0%）となっています。
- 一方、軽度認定者では、「タクシー」（61.2%）が最も高く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」（45.9%）、「路線バス」（24.0%）となっています。



問2-(10).② [問2-(10).②] 自分で運転しなくなった場合の移動手段

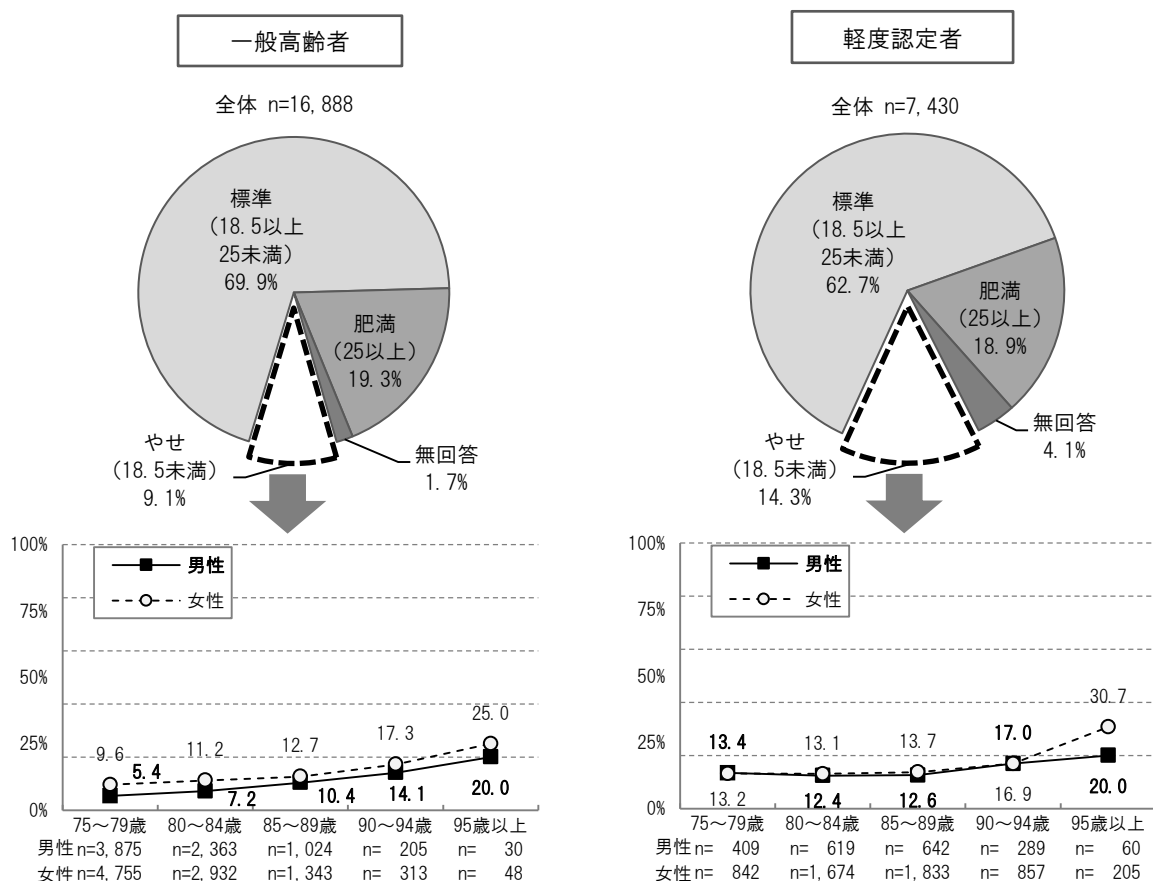


3 食べることについて

(1) 現在のやせの状況

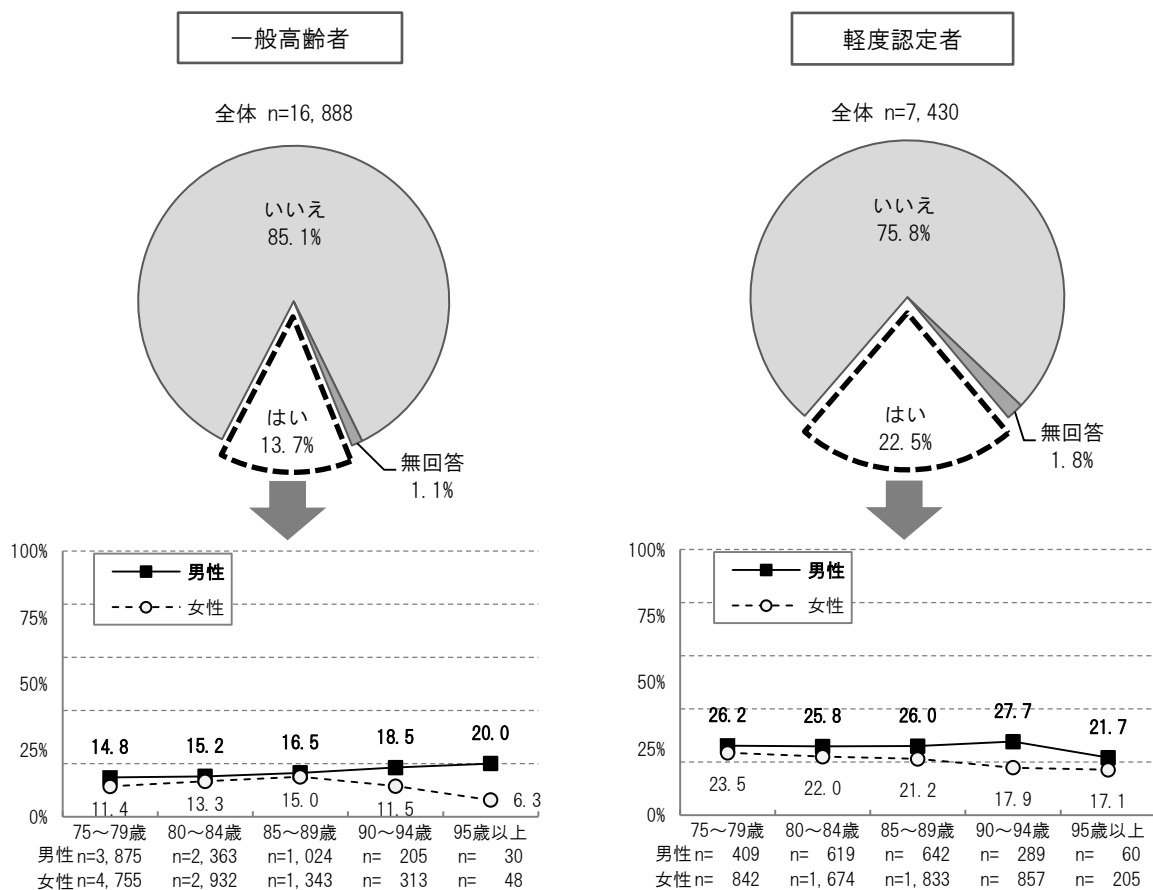
- BMI指数で「やせ（18.5未満）」と判定された一般高齢者は9.1%となり、加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は14.3%が「やせ（18.5未満）」となり、男女ともに90歳以降で割合が上昇します。

問3-(1) [問3-(1)] BMI指数



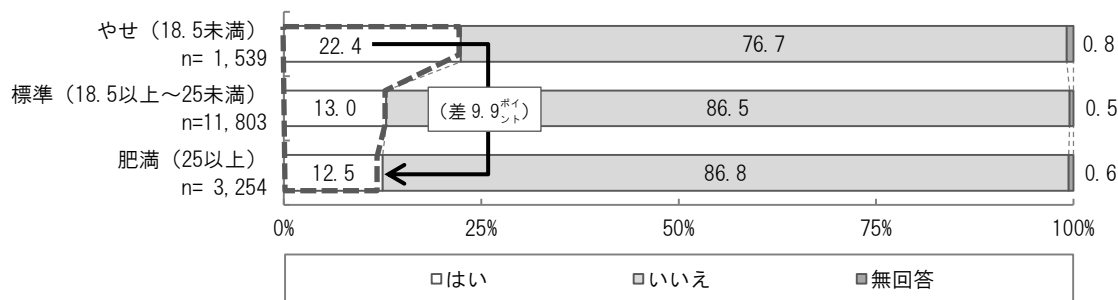
- 6か月間で2～3kg以上の体重減少があった一般高齢者は13.7%となり、男性は加齢とともに上昇しますが、女性は90歳以降で割合が減少します。
- 一方、軽度認定者は22.5%が体重減少があったと回答し、男性は90～94歳で高く、女性は加齢とともに割合が減少します。

問3-(2) [問3-(2)] 6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無



【掘り下げ分析】6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無とBMIの関係

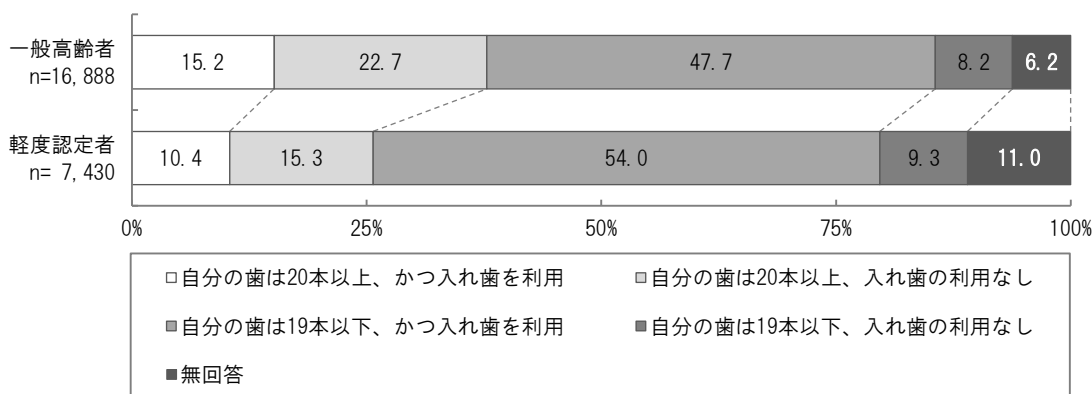
- 6か月間で2～3kg以上の体重減少があった後期高齢者の割合は、やせ（18.5未満）で高く、肥満（25以上）との差は9.9ポイントとなっています。



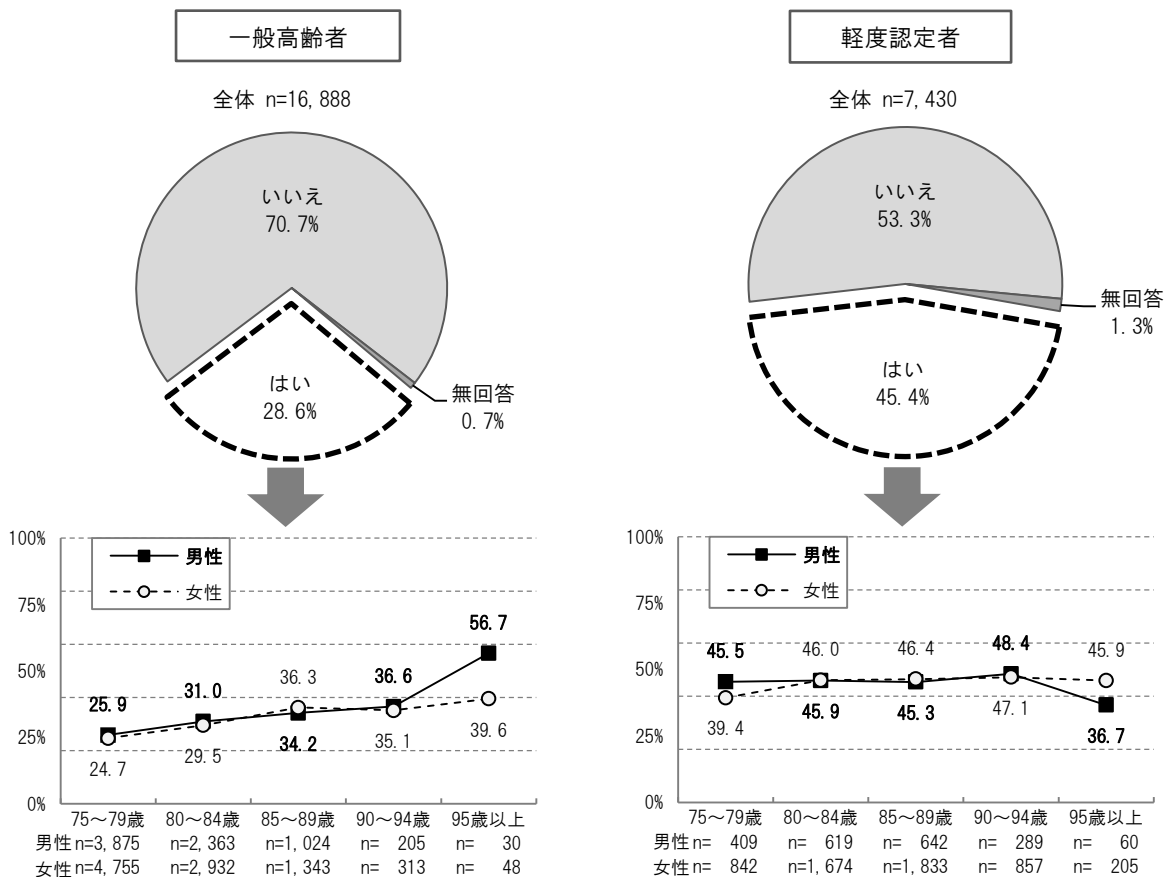
(2) 歯・口腔の状況

- 歯の数と入れ歯の利用状況をみると、一般高齢者・軽度認定者ともに「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」(47.7%・54.0%)が最も高く、次いで「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」(22.7%・15.3%)となっています。
- 半年前に比べて固いものが食べにくくなった一般高齢者は28.6%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなる傾向です。
- 一方、軽度認定者は45.4%が食べにくくなったと回答し、男女とも90～94歳で割合が高くなっています。

問3-(6) [問3-(6)] 歯の数と入れ歯の利用状況

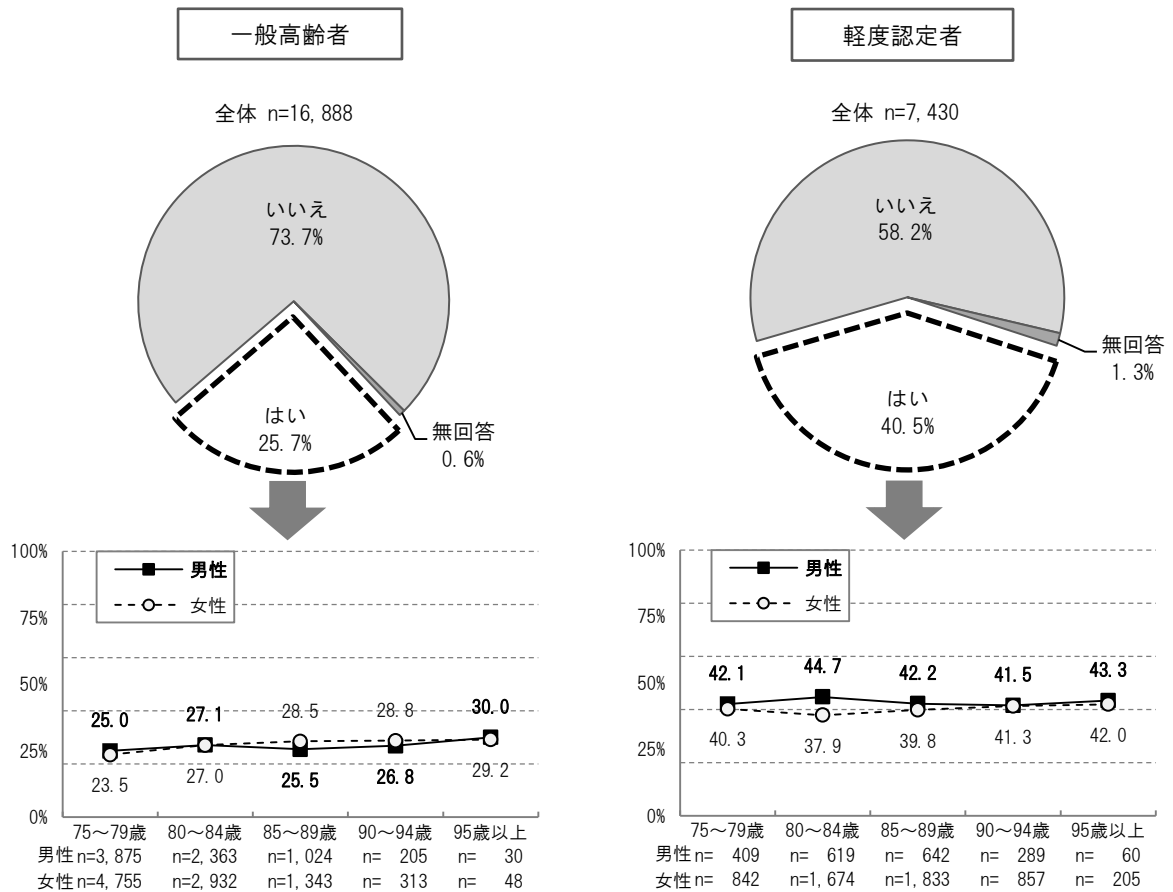


問3-(3) [問3-(3)] 半年前に比べて固いものが食べにくくなった



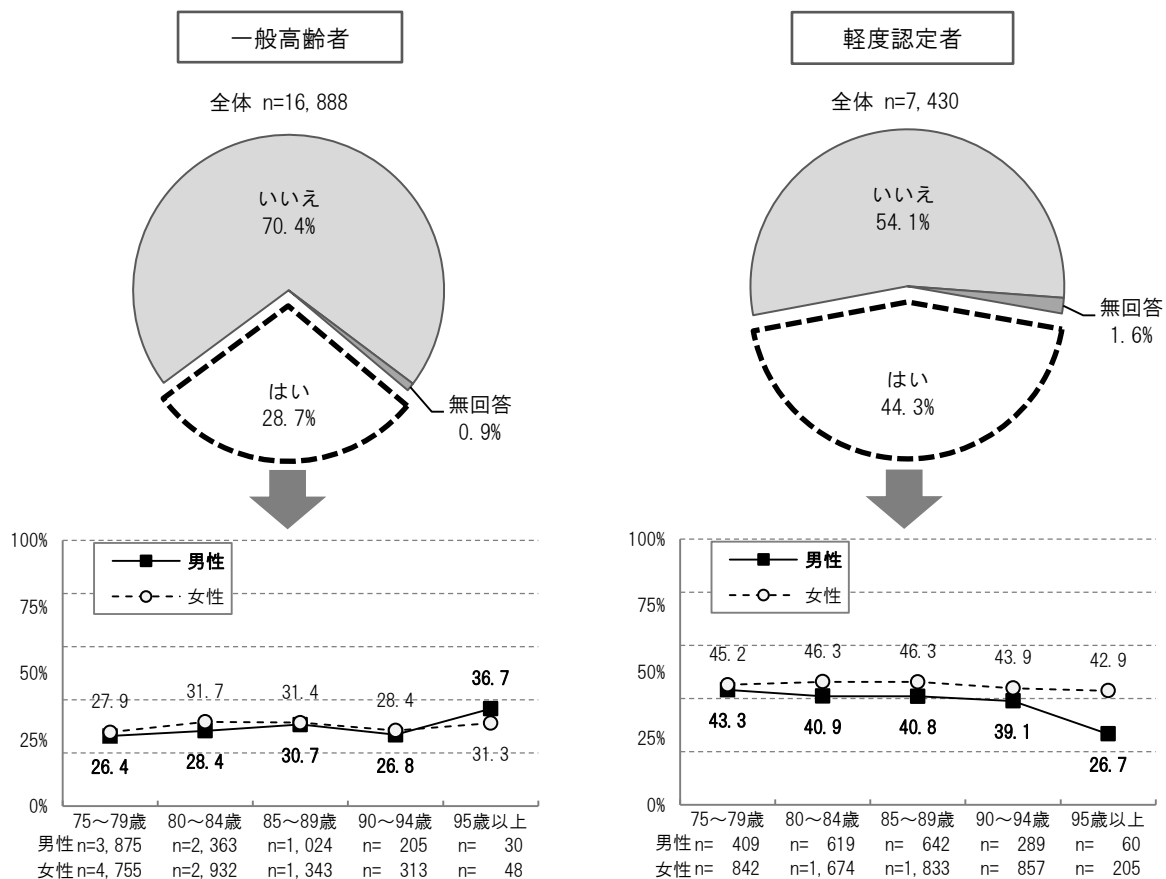
- お茶や汁物等でむせることのある一般高齢者は25.7%となり、男女とも95歳以上で割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は40.5%がむせることがあると回答し、男性は4割台、女性は4割前後で、年齢ごとの差はあまりない状況です。

問3-(4) [問3-(4)] お茶や汁物等でむせることの有無



- 口の渇きが気になる一般高齢者は28.7%となり、男女ともに90～94歳で割合が減少するものの、95歳以上では高くなっています。
- 一方、軽度認定者は44.3%が口の渇きが気になると回答し、男性の割合は加齢とともに減少しています。

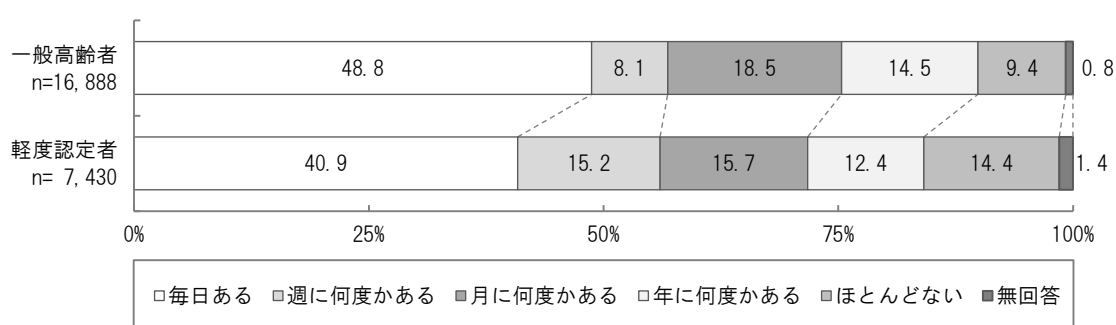
問3-(5) [問3-(5)] 口の渇きが気になるか



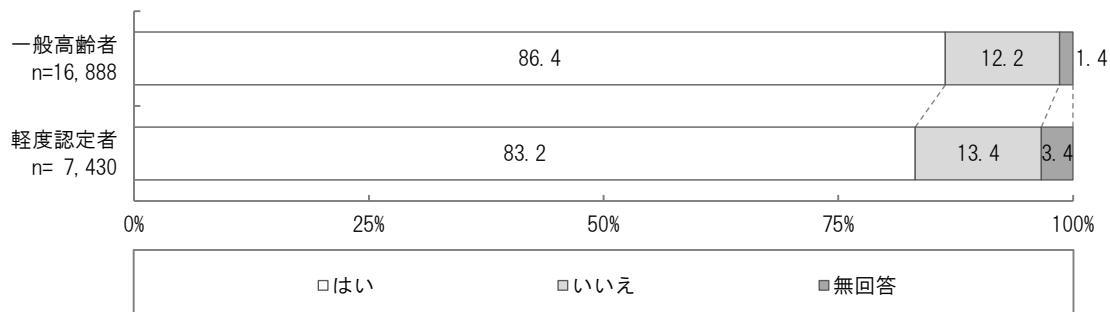
(3) 食事の状況

- 一般高齢者の誰かと食事をとる機会について、「毎日ある」(48.8%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(18.5%)、「年に何度かある」(14.5%)となっています。
- 一方、軽度認定者は「毎日ある」(40.9%)が最も高く、次いで「月に何度かある」(15.7%)、「週に何度かある」(15.2%)となっています。
- 健康に気を付けた食事を心がけている一般高齢者は86.4%、軽度認定者は83.2%となっています。
- 野菜料理と主菜(お肉またはお魚)を両方とも毎日1回は食べている一般高齢者は84.9%、軽度認定者は79.1%となっています。

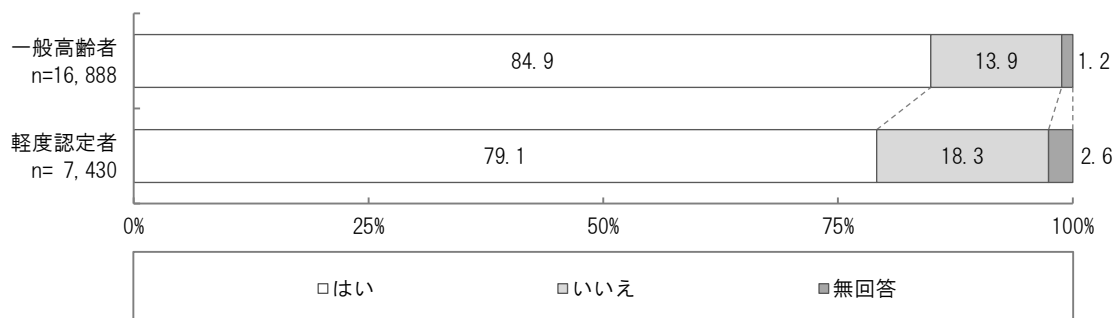
問3-(7) [問3-(7)] どなたかと食事をとる機会の有無



問3-(8) [問3-(8)] 健康に気を付けた食事を心がけているか

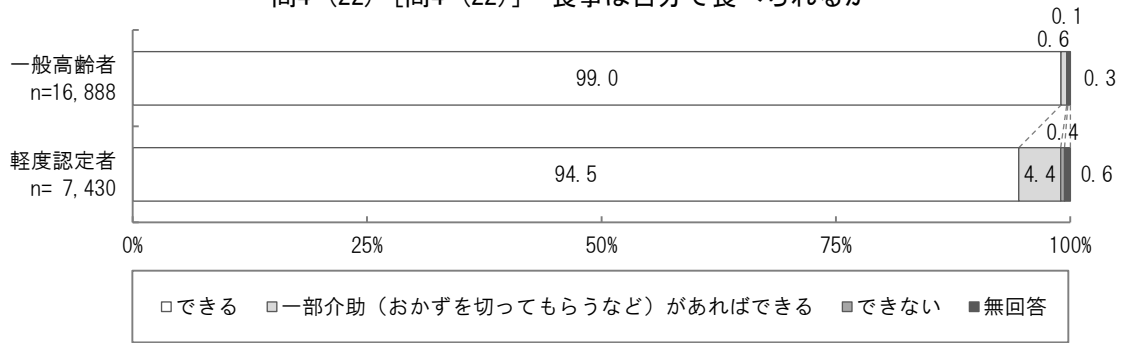


問3-(9) [問3-(9)] 野菜料理と主菜(お肉またはお魚)を両方とも毎日1回は食べているか



●自分で食事が食べられる一般高齢者は99.0%、軽度認定者は94.5%となっています。

問4-(22) [問4-(22)] 食事は自分で食べられるか

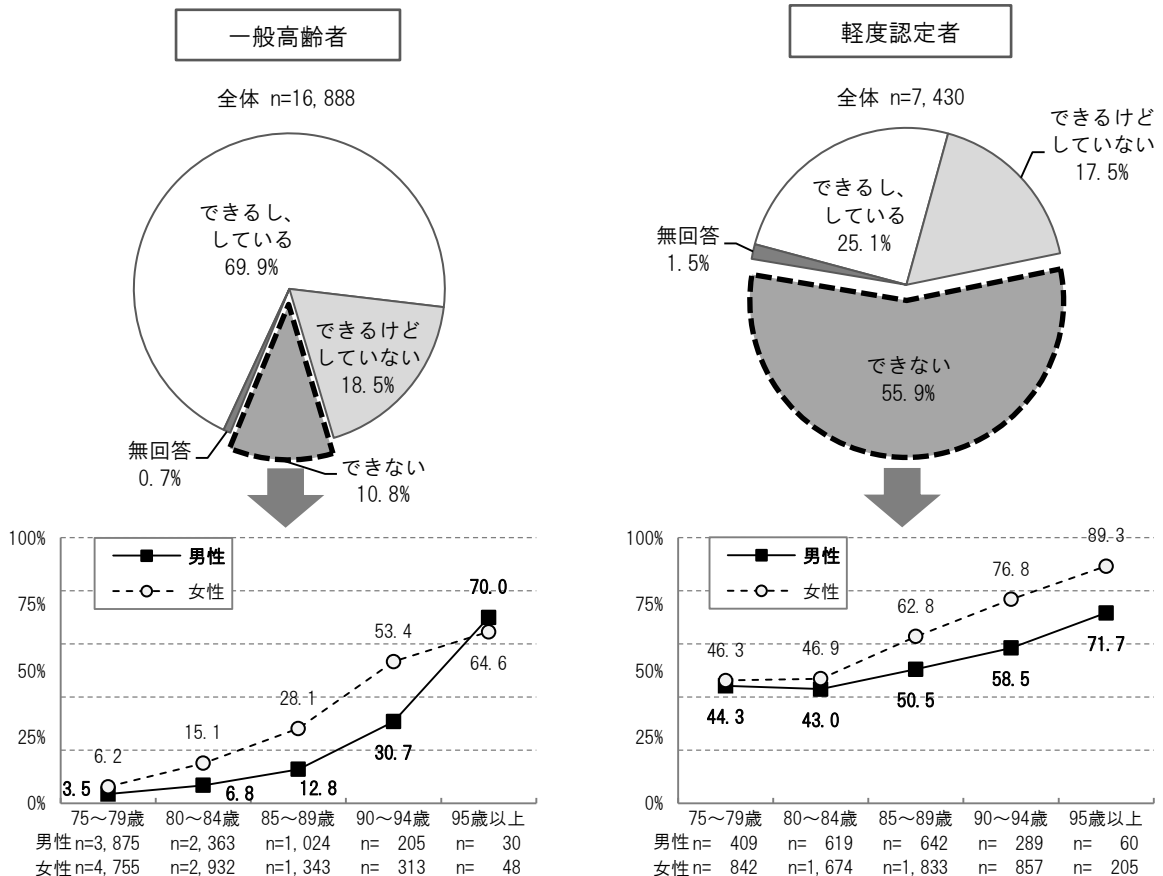


4 毎日の生活について

(1) IADL（手段的自立度）の状況

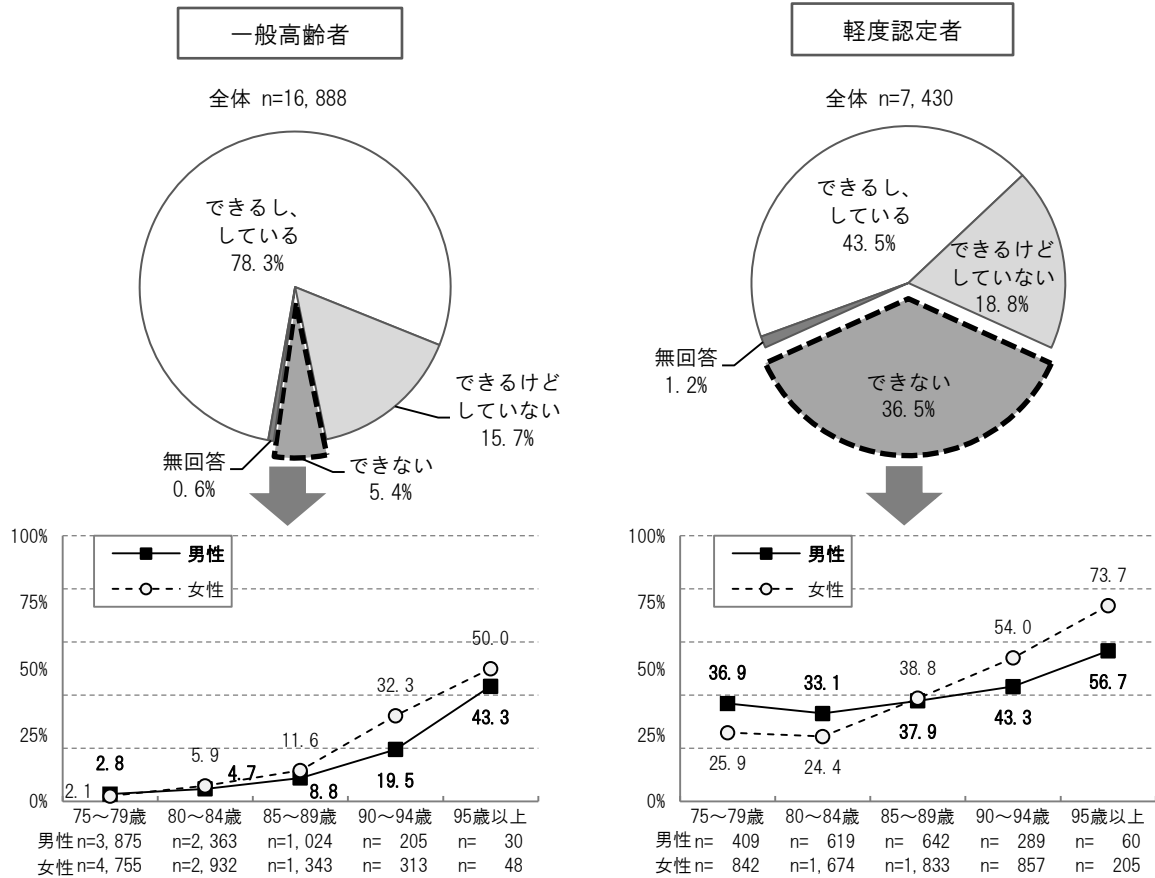
- バスや電車を使って1人で外出「できない」一般高齢者は10.8%となり、男女ともに90歳以降で割合が大きく上昇します。
- 一方、軽度認定者は55.9%が「できない」と回答し、男女ともに85歳以降で割合が大きく上昇します。

問4-(2) [問4-(2)] バスや電車を使って1人で外出しているか



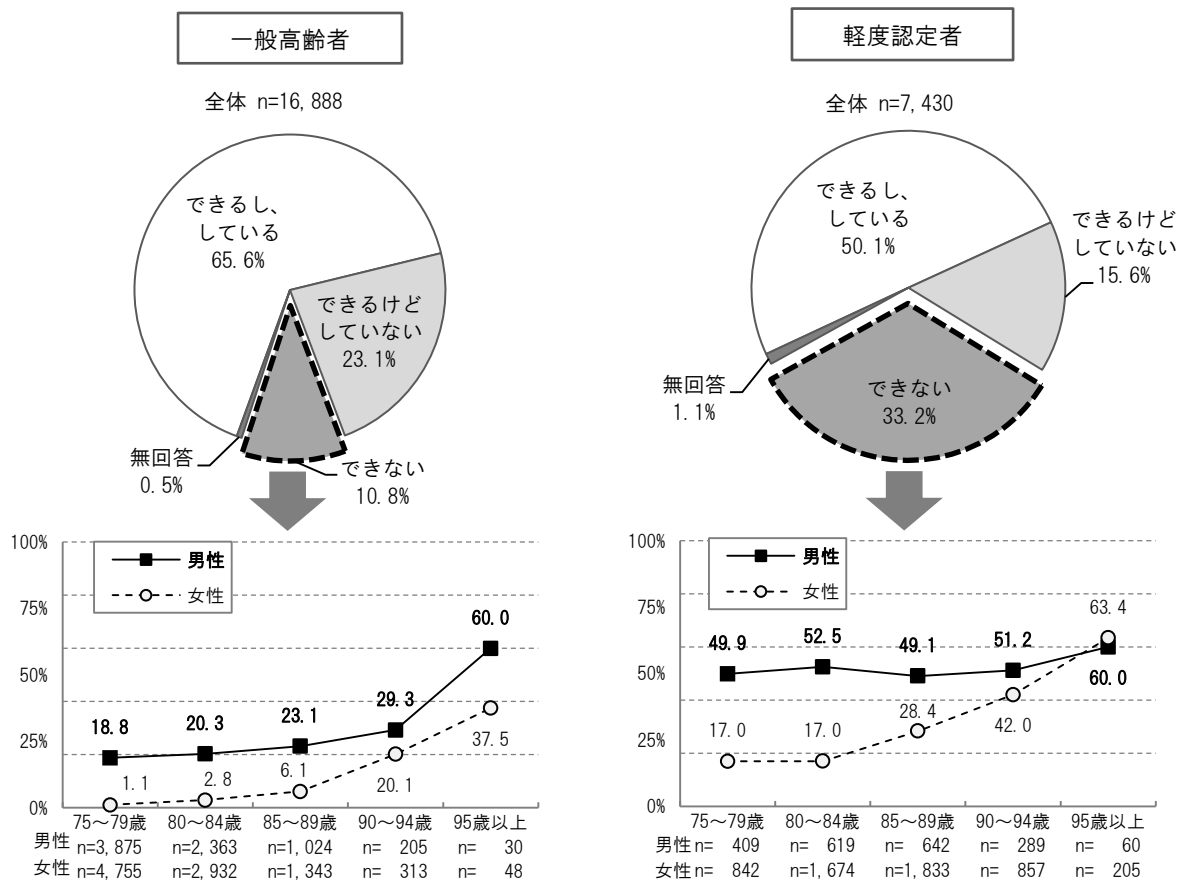
- 自分で食品・日用品の買い物が「できない」一般高齢者は5.4%となり、男女ともに90歳以上で割合が大きく上昇します。
- 一方、軽度認定者は36.5%が「できない」と回答し、男女ともに85歳以上で割合が上昇します。

問4-(3) [問4-(3)] 自分で食品・日用品の買い物をしているか



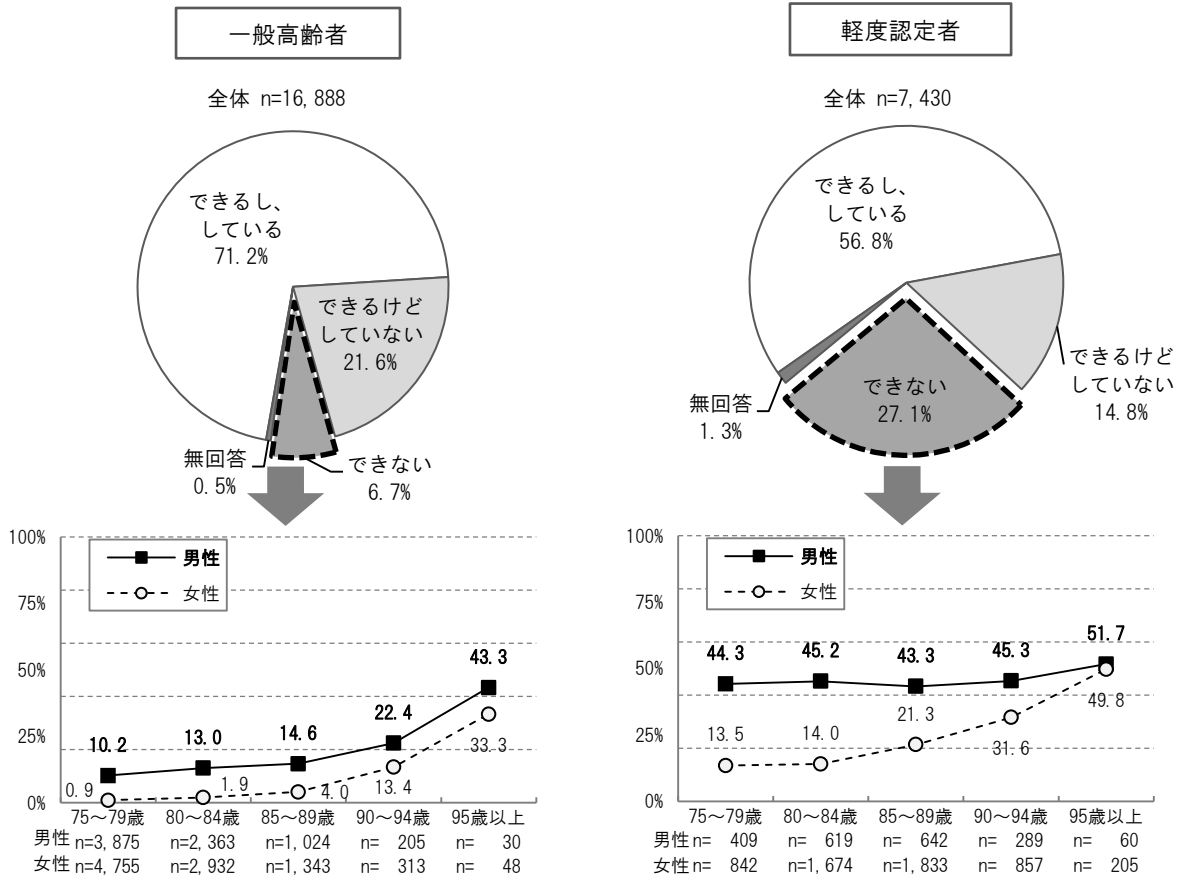
- 自分で食事の用意が「できない」一般高齢者は10.8%となり、男性の割合が女性より高くなっています。
- 一方、軽度認定者は33.2%が「できない」と回答し、男性の割合は高いものの、95歳以上で女性の割合が高くなっています。

問4-(4) [問4-(4)] 自分で食事の用意をしているか



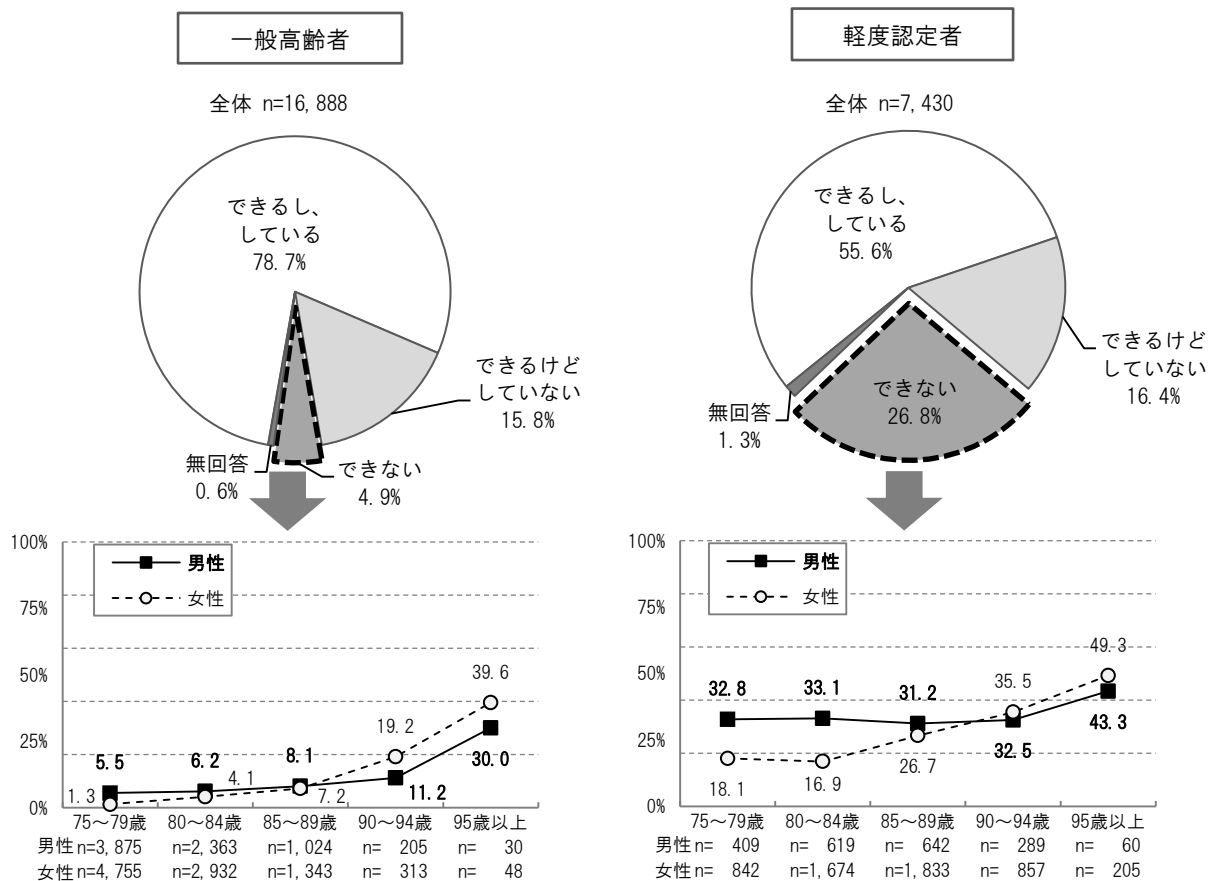
- 掃除・洗濯が「できない」一般高齢者は6.7%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は27.1%が「できない」と回答し、男性の割合は年齢による差はあまりない状況ですが、女性は加齢とともに割合が高くなっています。

問4-(5) [問4-(5)] 掃除・洗濯をしているか



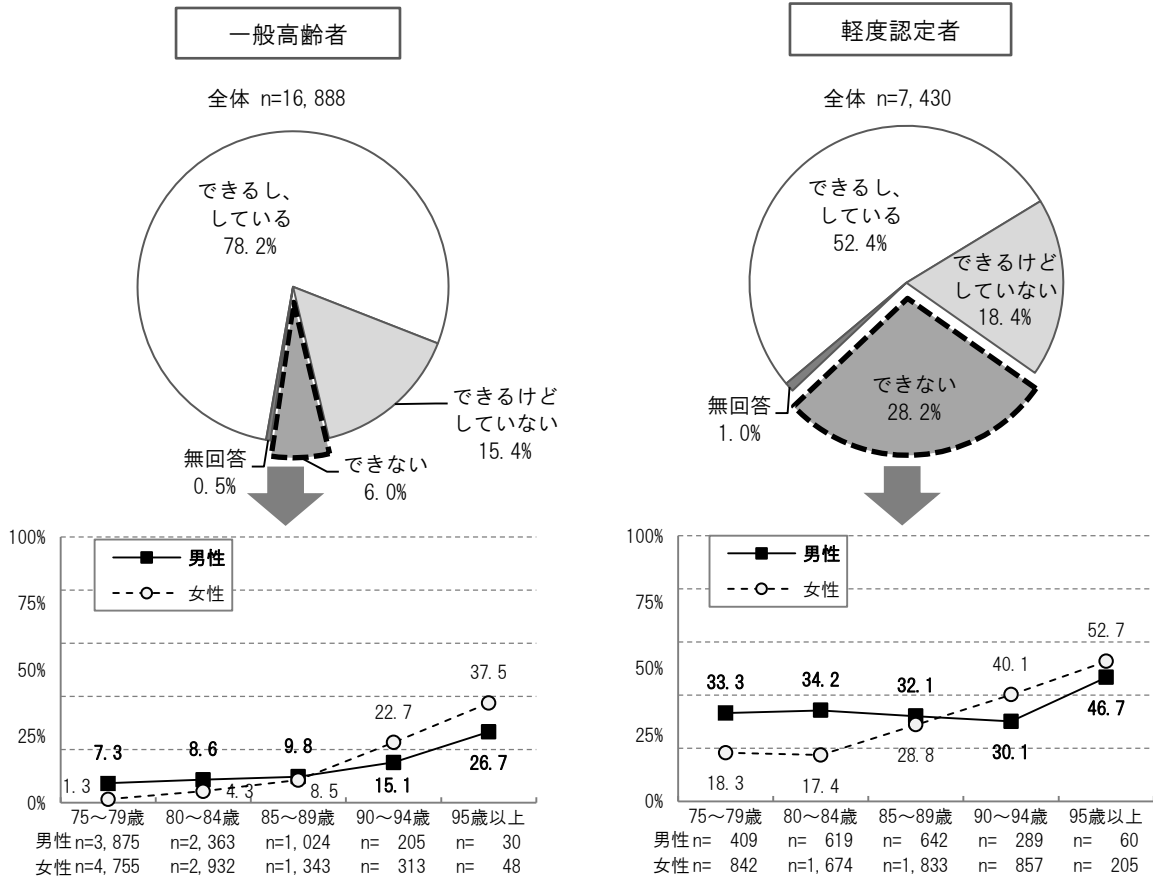
- 自分で請求書の支払いが「できない」一般高齢者は4.9%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は26.8%が「できない」と回答し、90歳以降で女性の割合が高くなっています。

問4-(6) [問4-(6)] 自分で請求書の支払いをしているか



- 自分で預貯金の出し入れが「できない」一般高齢者は6.0%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は28.2%が「できない」と回答し、90歳以降で女性の割合が高くなっています。

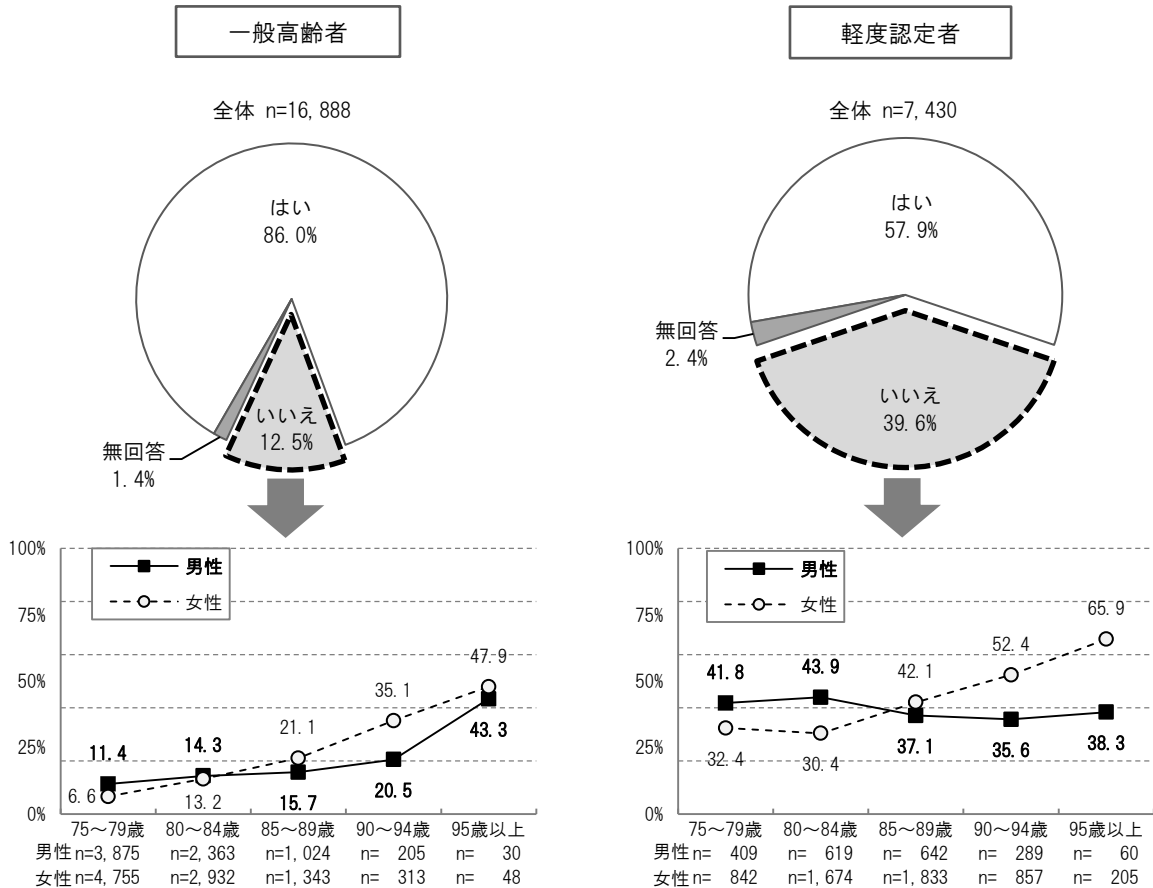
問4-(7) [問4-(7)] 自分で預貯金の出し入れをしているか



(2) 社会参加（知的能動性）の状況

- 年金などの書類が書けない一般高齢者は12.5%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなっていきます。
- 一方、軽度認定者は39.6%が書けないと回答し、男性の割合は80～84歳が高く、女性は90歳以降で5割を超えています。

問4-(11) [問4-(11)] 年金などの書類が書けるか



【掘り下げ分析】知的能動性低下と孤食状況の関係

- 知的能動性低下の該当・非該当者別にどなたかと食事をとる機会の状況をみると、一般高齢者では「ほとんどない」（孤食者）の回答割合が、非該当者（7.9%）を該当者（16.8%）が8.9^{ポイント}上回っています。一方、軽度認定者では「毎日ある」「週に何度かある」の回答割合が、非該当者（37.0%・14.7%）を該当者（46.7%・15.9%）が9.7^{ポイント}・1.2^{ポイント}上回っています。

単位：%

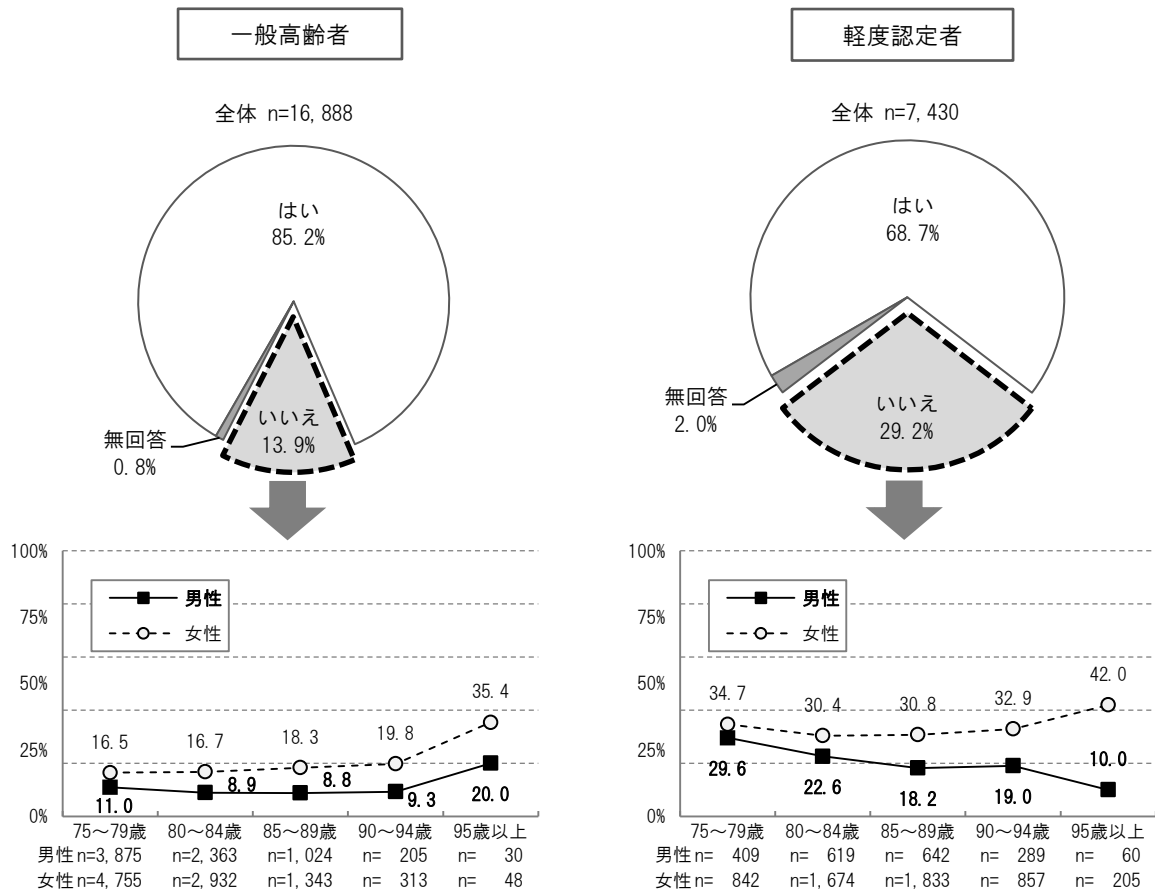
知的能動性低下		孤食状況				
		食事をとる機会が毎日ある	食事をとる機会が週に何度かある	食事をとる機会が月に何度かある	食事をとる機会が年に何度かある	食事をとる機会がほとんどない
一般高齢者	該当者	48.5	8.0	13.0	12.6	16.8
	非該当者	48.8	8.1	19.6	14.9	7.9
軽度認定者	該当者	46.7	15.9	10.3	9.2	9.2
	非該当者	37.0	14.7	19.2	14.5	12.9

※各調査で知的能動性低下（「年金などの書類が書けない」「新聞を読んでいない」「本や雑誌を読んでいない」「健康についての記事や番組に関心が無い」）の該当・非該当者ごとにみた孤食状況の割合です。

※無回答者がいるため、該当・非該当者の各計は100%にはなりません。

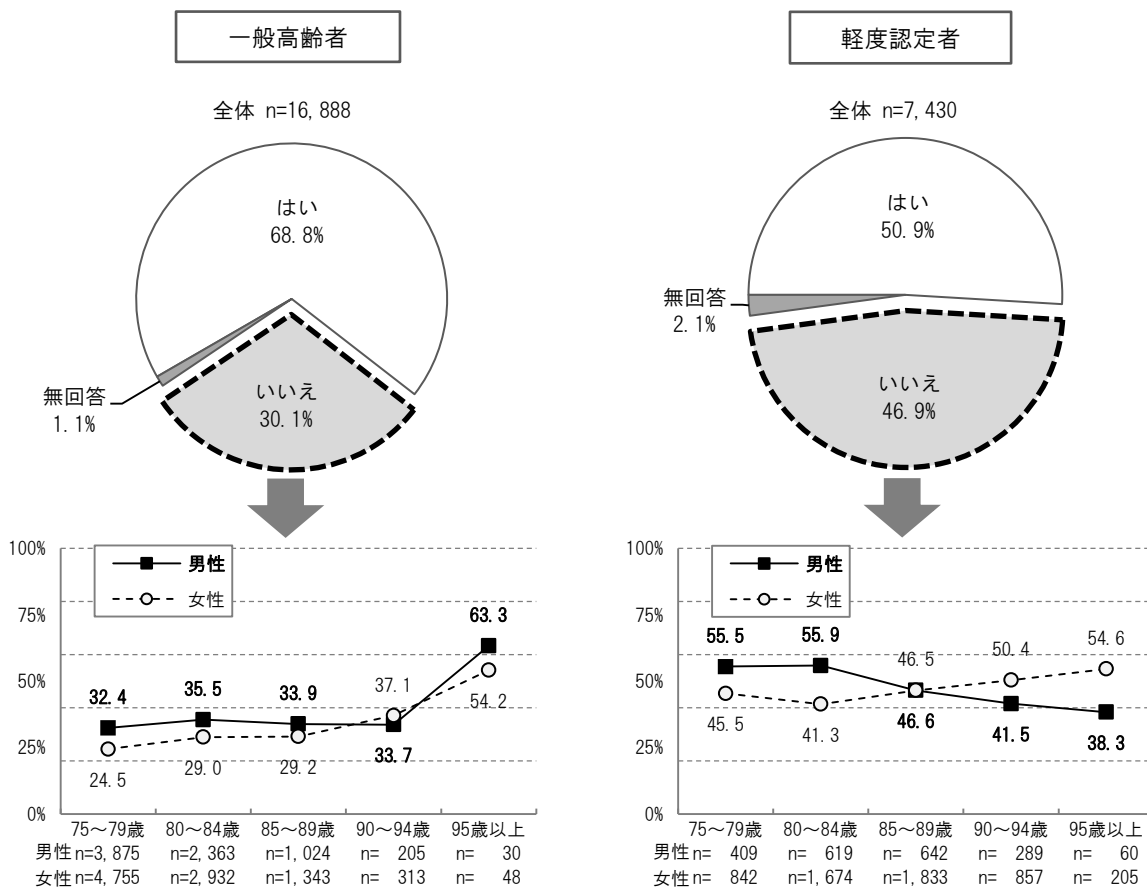
- 新聞を読んでいない一般高齢者は13.9%となり、女性の割合が男性より高くなっています。
- 一方、軽度認定者は29.2%が読んでいないと回答し、男性の割合は加齢とともに減少する傾向ですが、女性の割合は95歳以上で4割に達しています。

問4-(12) [問4-(12)] 新聞を読んでいるか



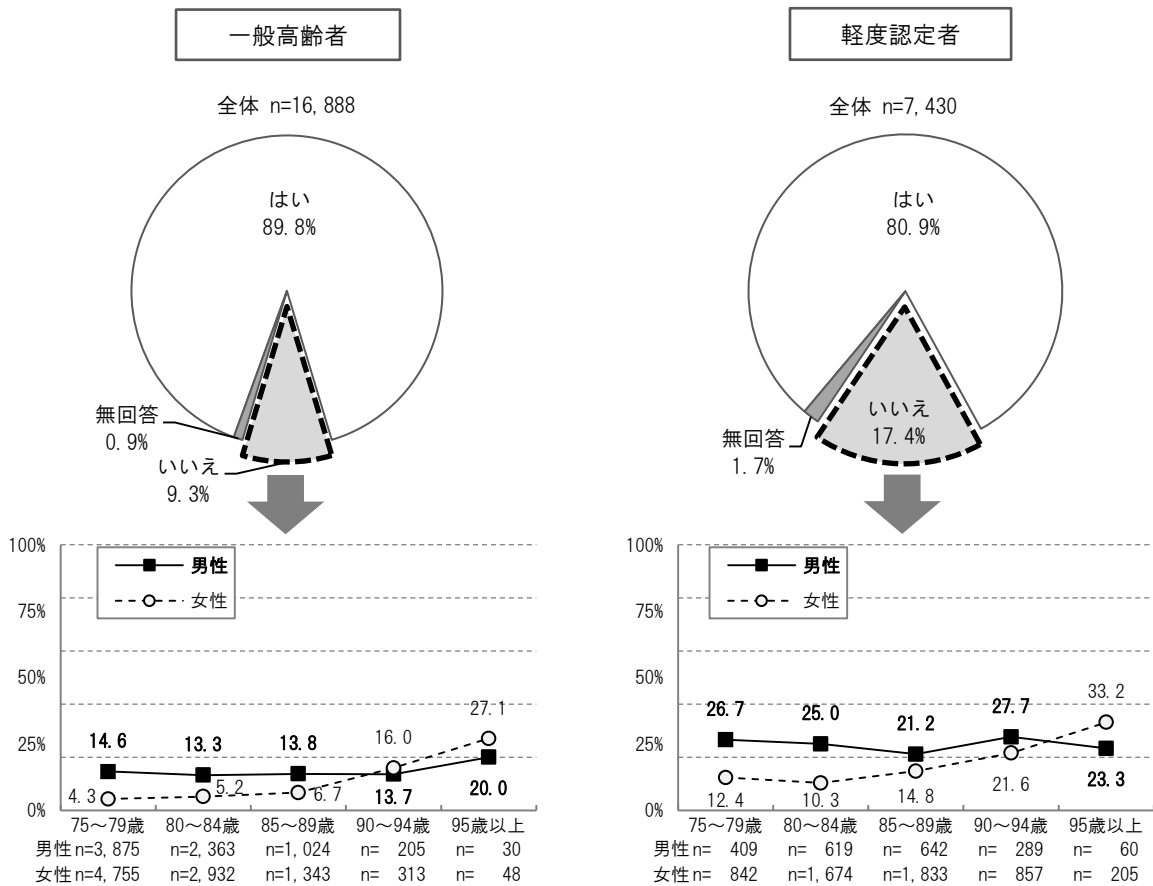
- 本や雑誌を読んでいない一般高齢者は30.1%となり、男女ともに95歳以上で割合が大きく上昇しています。
- 一方、軽度認定者は46.9%が読んでいないと回答し、男性の割合は加齢とともに減少傾向ですが、女性の割合は加齢とともに上昇傾向となっています。

問4-(13) [問4-(13)] 本や雑誌を読んでいるか



- 健康についての記事や番組に関心がない一般高齢者は9.3%となり、男女ともに95歳以上で2割以上となっています。
- 一方、軽度認定者は17.4%で関心がないと回答し、女性の割合は85歳以降で上昇しています。

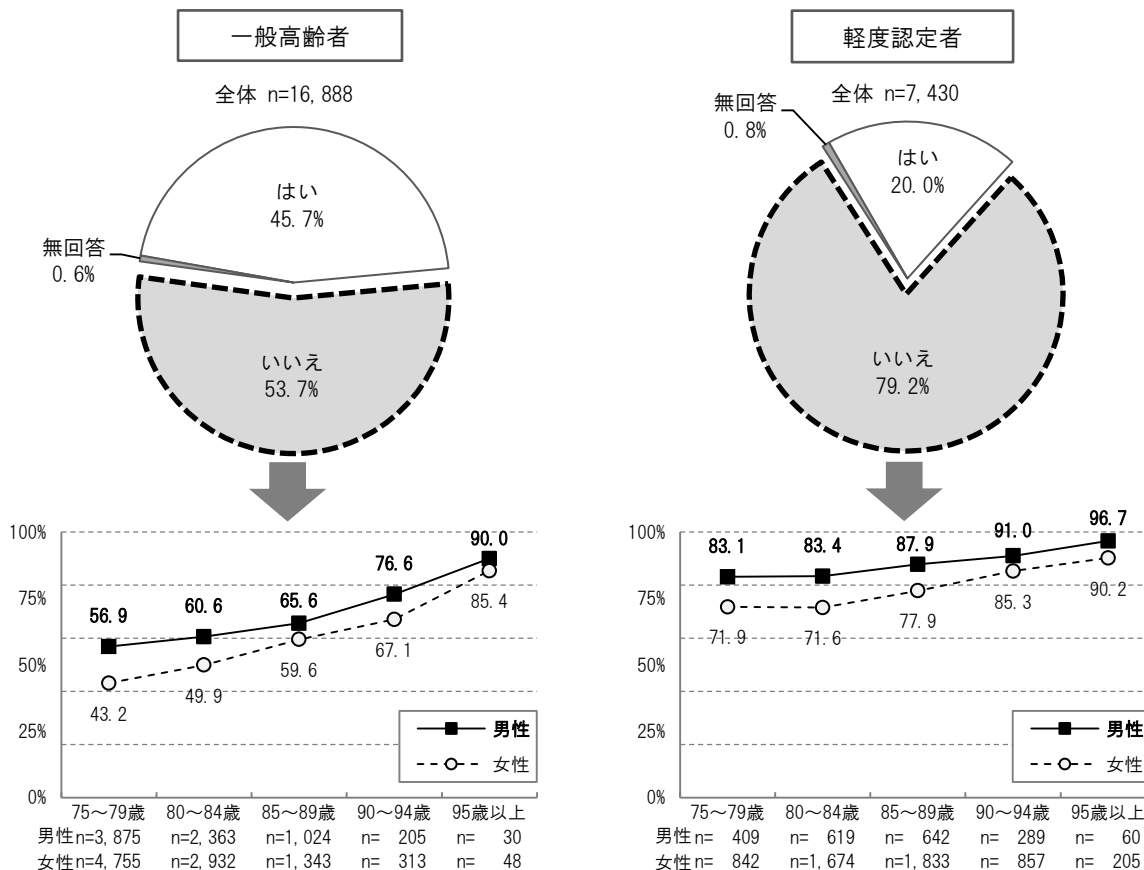
問4-(14) [問4-(14)] 健康についての記事や番組に関心があるか



(3) 社会参加（社会的役割）の状況

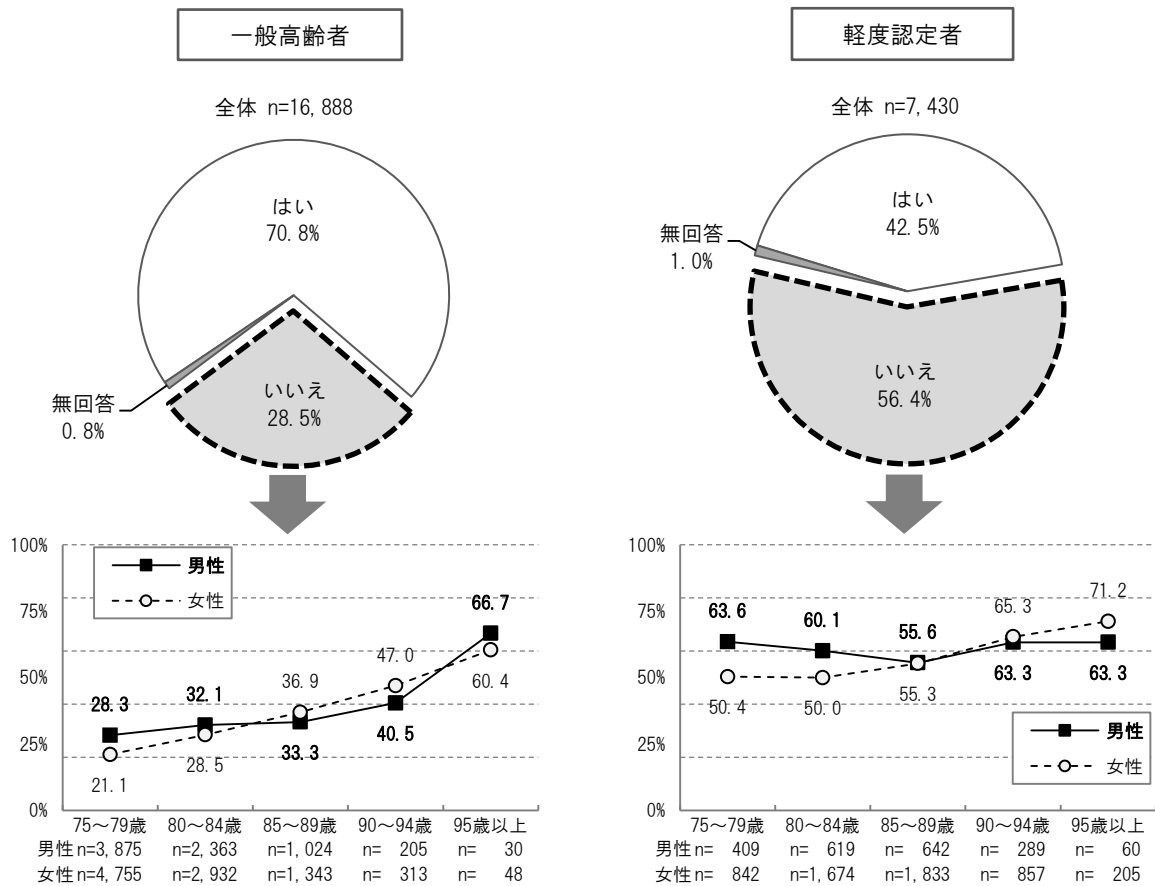
- 友人の家を訪ねていない一般高齢者は53.7%となり、男性の割合が女性より高く、95歳以上は9割を占めています。
- 一方、軽度認定者は79.2%が訪ねていないと回答し、男性は90歳以降、女性は95歳以上で9割を超えています。

問4-(15) [問4-(15)] 友人の家を訪ねているか



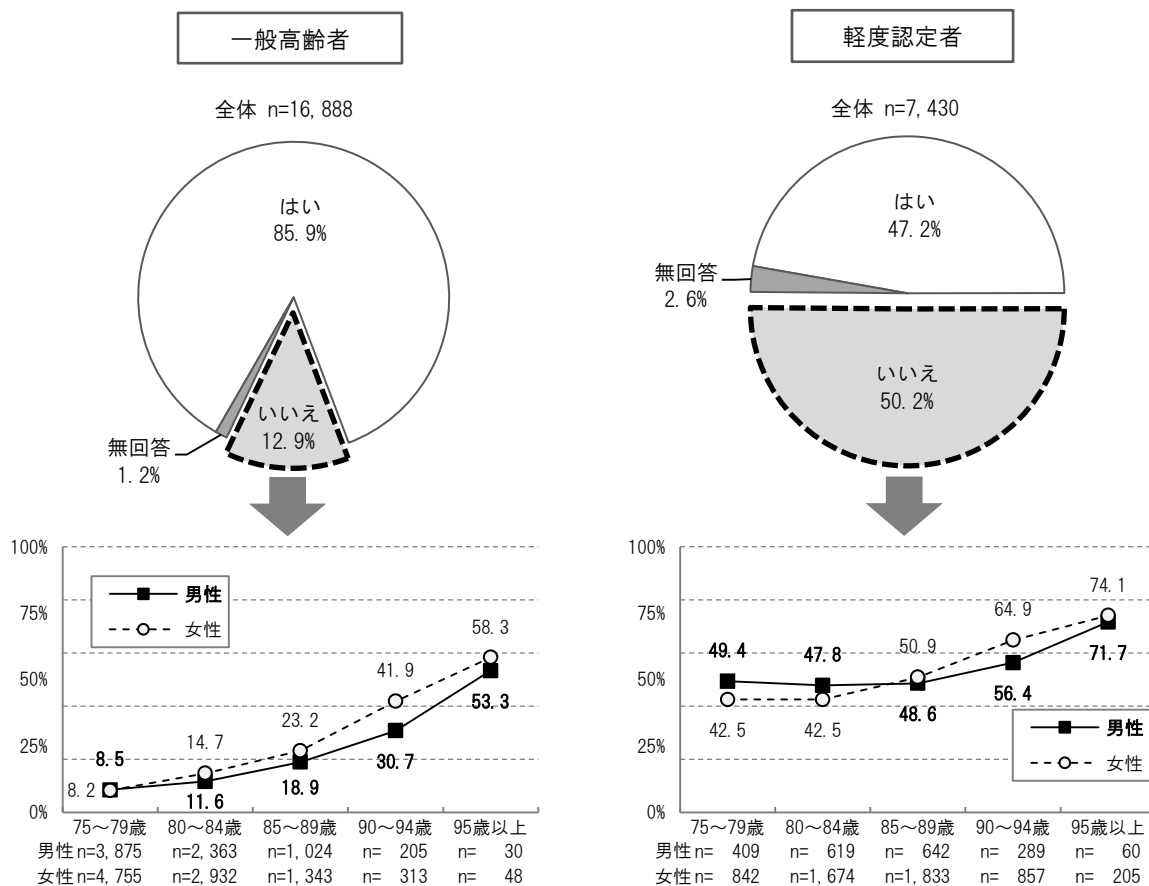
- 家族や友人の相談にのっていない一般高齢者は28.5%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は56.4%が相談にのっていないと回答し、90歳以降では女性の割合が男性を超え高くなっています。

問4-(16) [問4-(16)] 家族や友人の相談にのっているか



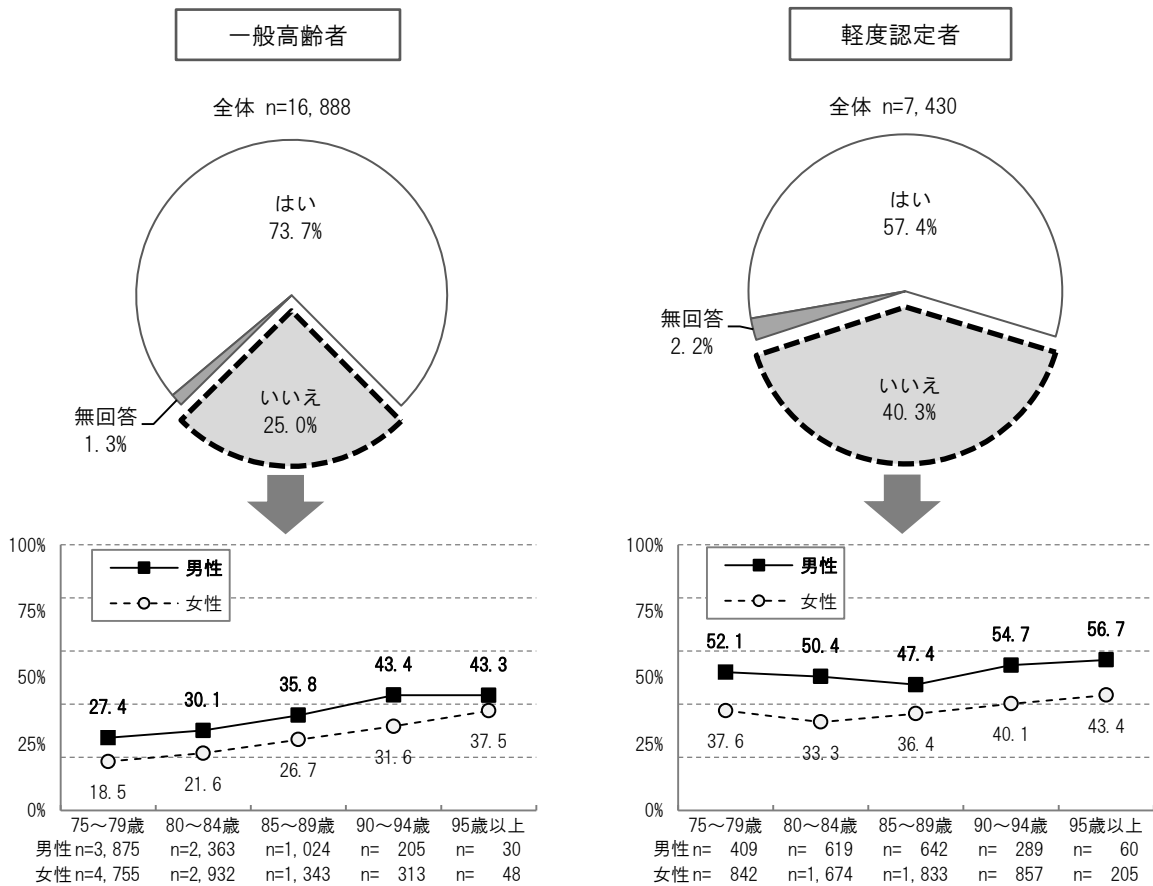
- 病人を見舞うことができない一般高齢者は12.9%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は50.2%ができないと回答し、男女とも加齢とともに割合が高くなる傾向ですが、85歳以降は女性の割合が男性より高くなっています。

問4-(17) [問4-(17)] 病人を見舞うことができるか



- 若い人に自分から話しかけることがない一般高齢者は25.0%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなる傾向です。
- 一方、軽度認定者は40.3%が話しかけることがないと回答し、男性の割合が女性より高くなっています。

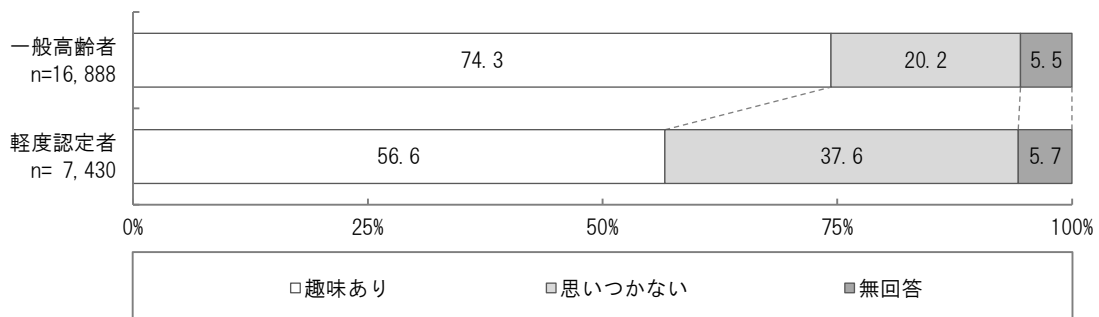
問4-(18) [問4-(18)] 若い人に自分から話しかけることがあるか



(4) こころの健康状態

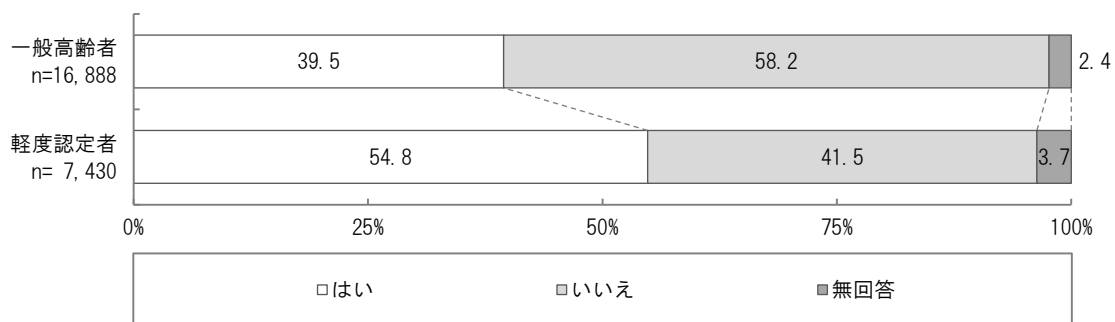
- 趣味がある一般高齢者は74.3%、軽度認定者は56.6%となっています。

問4-(23) [問4-(23)] 趣味の有無

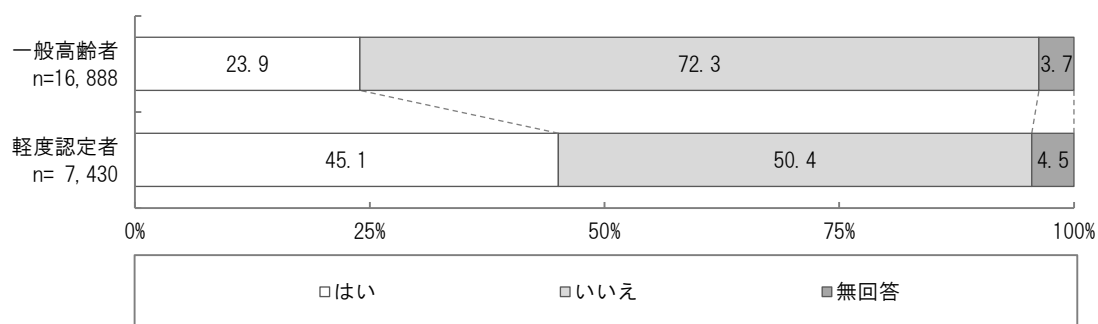


- この1か月に気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった一般高齢者は39.5%、軽度認定者は54.8%となっています。
- この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった一般高齢者は23.9%、軽度認定者は45.1%となっています。
- ここ2週間、毎日の生活に充実感がない一般高齢者は22.9%、軽度認定者は41.3%となっています。

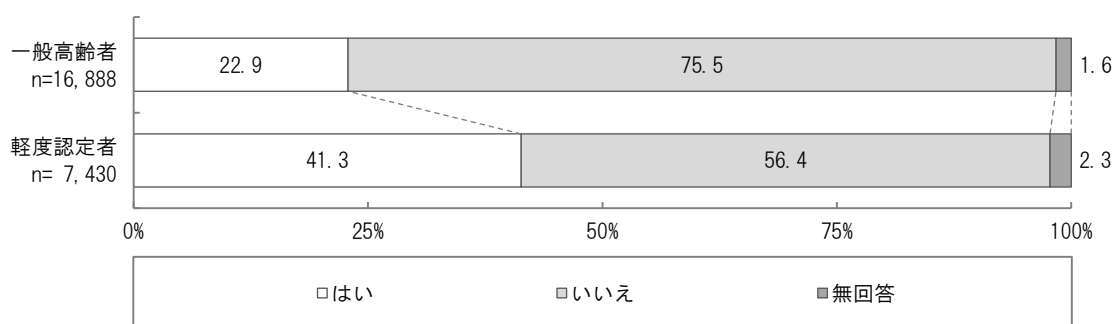
問7-(3) [問7-(3)] この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった



問7-(4) [問7-(4)] この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった

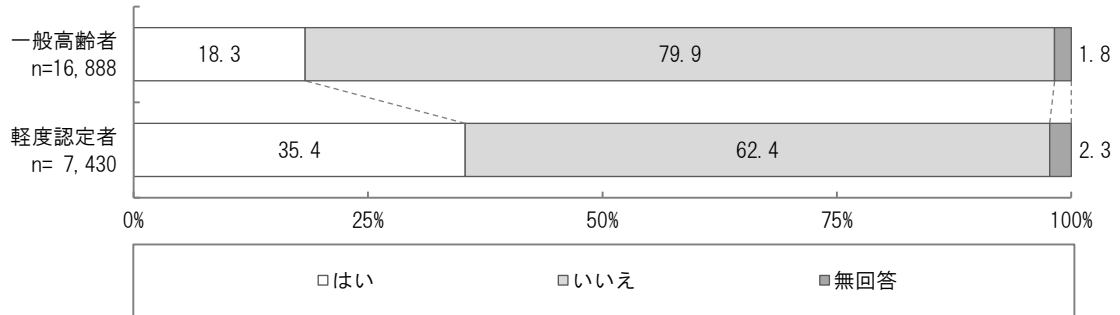


問7-(5) [問7-(5)] ここ2週間、毎日の生活に充実感がない

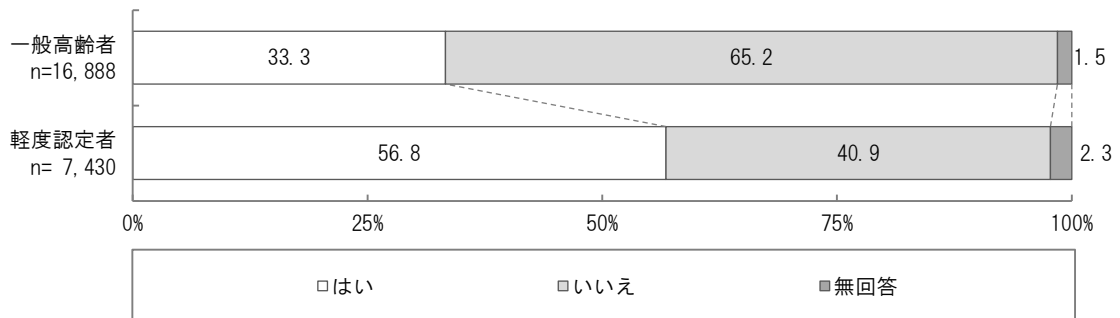


- ここ2週間、これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった一般高齢者は18.3%、軽度認定者は35.4%となっています。
- ここ2週間、以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる一般高齢者は33.3%、軽度認定者は56.8%となっています。
- ここ2週間、自分が役に立つ人間だと思えない一般高齢者は25.0%、軽度認定者は48.4%となっています。

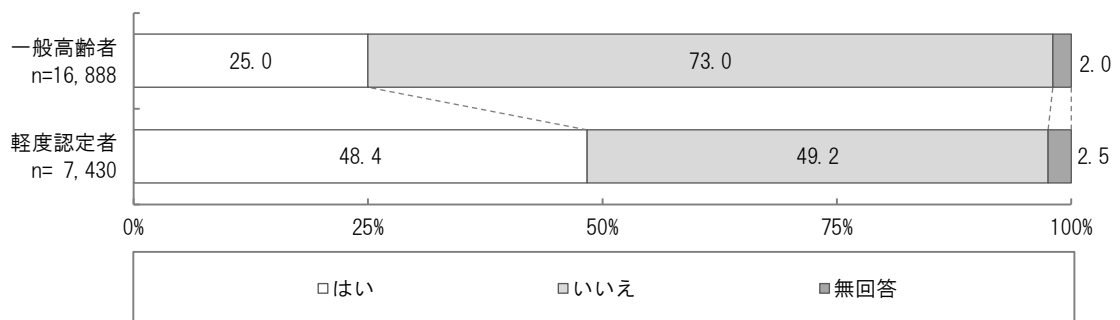
問7-(6) [問7-(6)] ここ2週間、これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった



問7-(7) [問7-(7)] ここ2週間、以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる

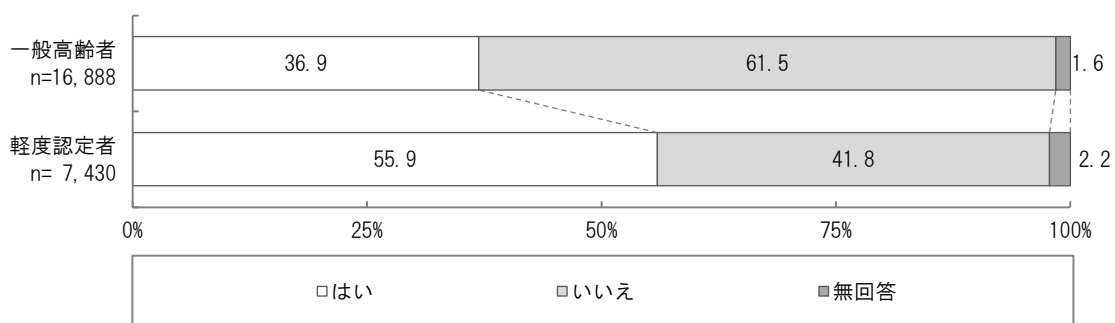


問7-(8) [問7-(8)] ここ2週間、自分が役に立つ人間だと思えない

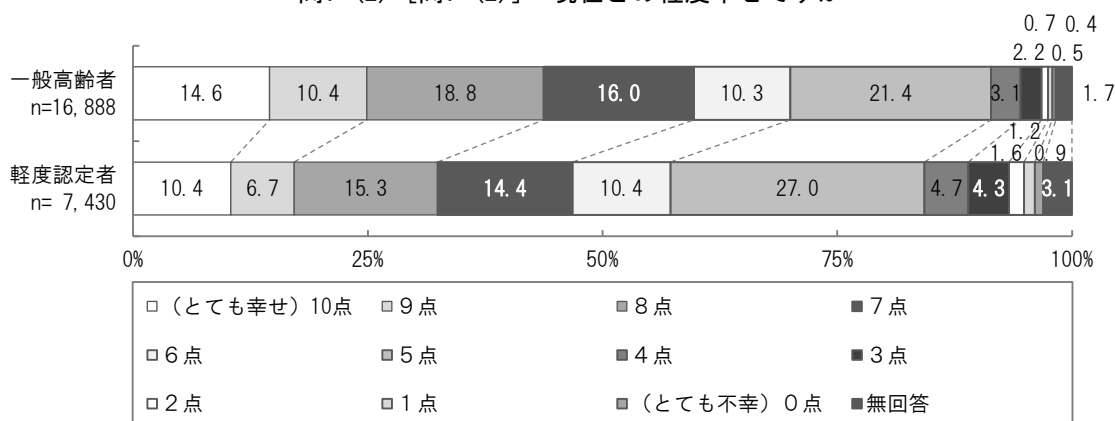


- ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがする一般高齢者は36.9%、軽度認定者は55.9%となっています。
- 一般高齢者の現在の主観的幸福感は、「5点」(21.4%)が最も高く、次いで「8点」(18.8%)、「7点」(16.0%)、「(とても幸せ)10点」(14.6%)の順で、平均点数は7.0点となっています。
- 一方、軽度認定者も一般高齢者とほぼ同様で、「5点」(27.0%)が最も高く、次いで「8点」(15.3%)、「7点」(14.4%)、「(とても幸せ)10点」「6点」(各10.4%)の順で、平均点数は6.4点となっています。

問7-(9) [問7-(9)] ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがする



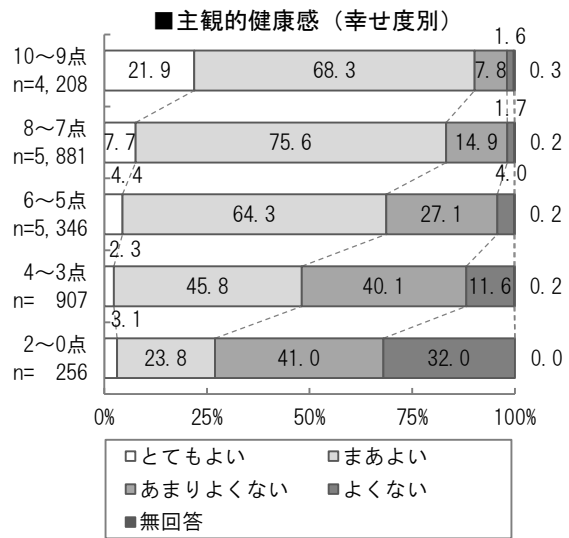
問7-(2) [問7-(2)] 現在どの程度幸せですか



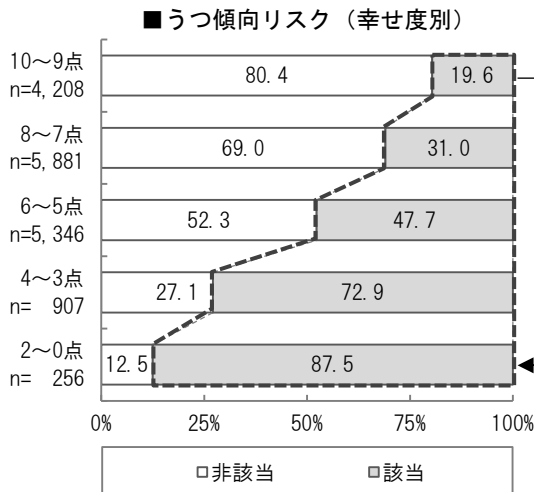
平均点数	
一般高齢者	7.0点
軽度認定者	6.4点

【掘り下げ分析】主観的健康感と幸せ度の関係（一般高齢者）

●主観的健康感を見ると、幸せ度（点数）が高いほど健康状態がよいと感じている後期高齢者の割合が高く、反対に、幸せ度（点数）が低いほど健康状態がよくないと感じている後期高齢者の割合が高くなっています。



【掘り下げ分析】うつ傾向リスクと幸せ度の関係（一般高齢者）



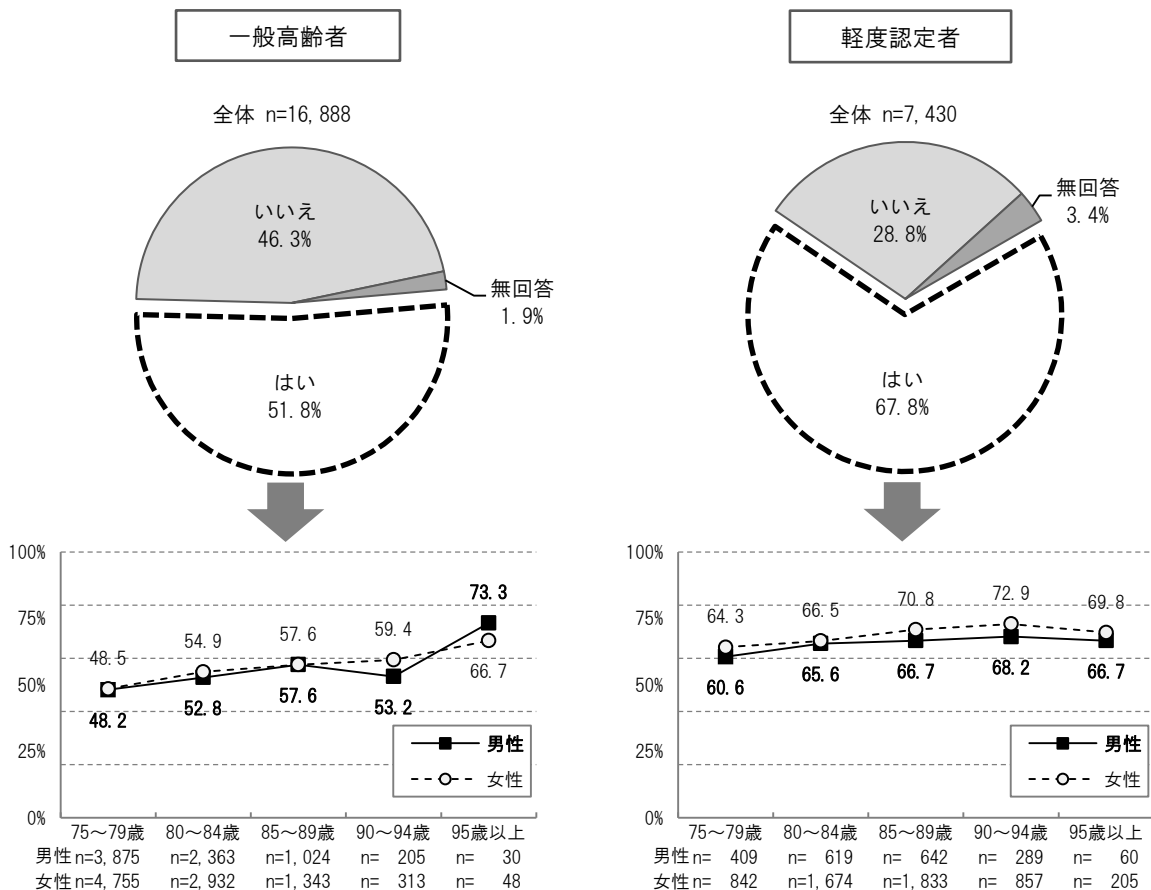
●うつ傾向リスクに該当する後期高齢者の割合は、幸せ度（点数）が低いほど高く、幸せ度（点数）が高い者との差は67.9ポイントとなっています。

(差 67.9ポイント)

(5) 物忘れの状況

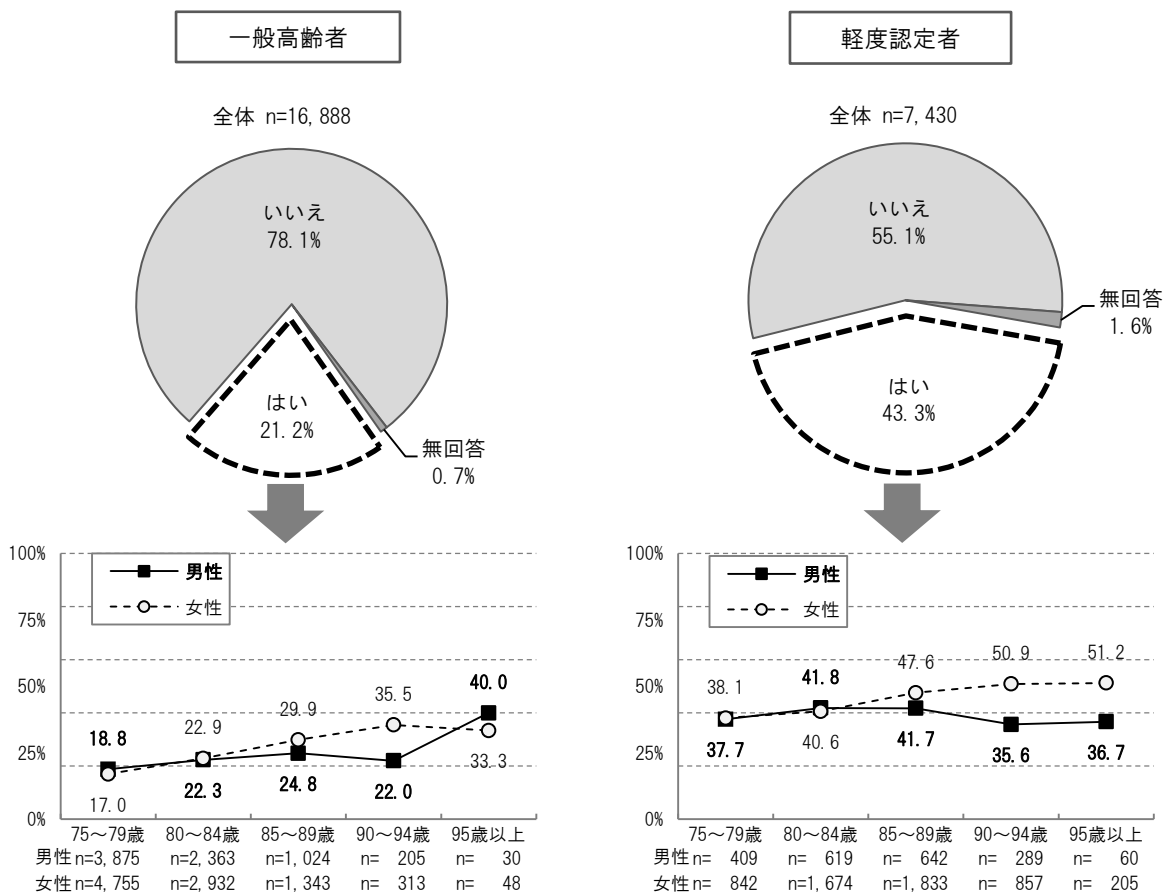
- 物忘れが多いと感じる一般高齢者は51.8%となり、男性の90～94歳を除き、他の年齢階級は加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は67.8%で物忘れが多いと感じ、男女とも90～94歳までは割合が上昇しますが、95歳以上でやや低くなっています。

問4-(1) [問4-(1)] 物忘れが多いと感じるか



- いつも同じことを聞くなどといわれる一般高齢者は21.2%となり、男性は95歳以上、女性は90～94歳で割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は43.3%がいわれると回答し、女性は加齢とともに割合が高くなっていますが、男性の85歳以降はやや減少します。

問4-(8) [問4-(8)] いつも同じことを聞くなどといわれるか



【掘り下げ分析】物忘れリスクと友人・知人との交流頻度

- 友人・知人と会う頻度について、物忘れリスク該当者と非該当者の差をみると、一般高齢者・軽度認定者ともに「ほとんどない」の回答で最も乖離が大きくなっており、いずれも物忘れリスク該当者の割合が非該当者より高く、一般高齢者で9.9ポイント、軽度認定者で12.9ポイント上回っています。

単位:%

物忘れリスク		交流頻度				
		友人・知人に会うことが毎日ある	友人・知人に会うことが週に何度かある	友人・知人に会うことが月に何度かある	友人・知人に会うことが年に何度かある	友人・知人に会うことがほとんどない
一般高齢者	該当者	8.2	26.3	25.9	14.8	20.7
	非該当者	10.4	33.4	27.9	14.2	10.8
軽度認定者	該当者	4.0	23.5	19.8	13.2	35.5
	非該当者	5.3	27.6	25.3	14.2	22.6

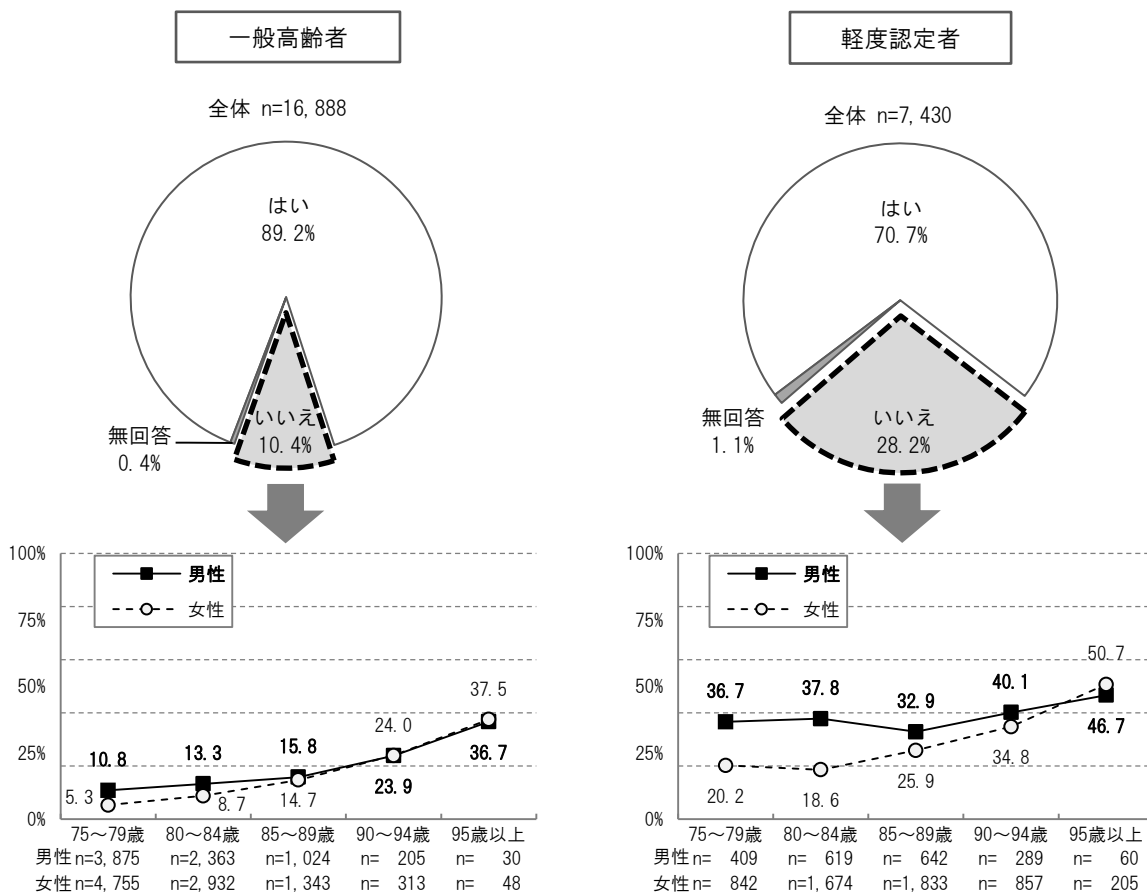
(差 9.9ポイント)
(差 12.9ポイント)

※各調査で物忘れリスクの該当・非該当者ごとにみた交流頻度の割合です。

※無回答者がいるため、該当・非該当者の各計は100%にはなりません。

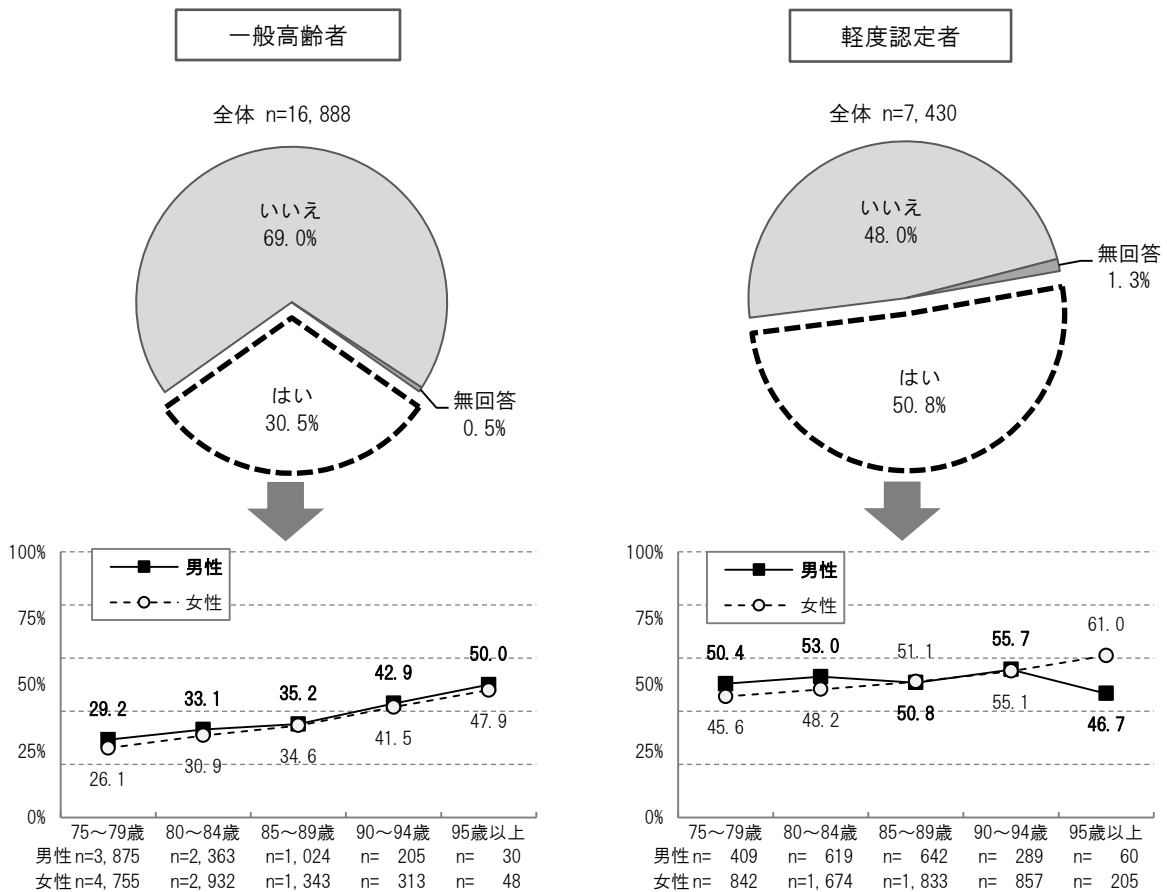
- 自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていない一般高齢者は10.4%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は28.2%がしていないと回答し、男女とも90歳以降で割合が高くなっています。

問4-(9) [問4-(9)] 自分で電話番号を調べて電話をかけることをしているか

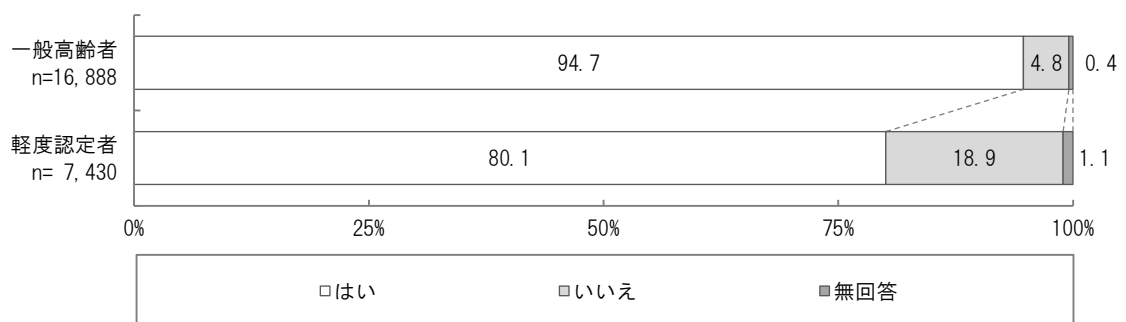


- 今日が何月何日かわからない時がある一般高齢者は30.5%となり、男女とも加齢とともに割合が高くなっています。
- 一方、軽度認定者は50.8%でわからない時があると回答し、男性の割合は90～94歳が高く、女性は加齢とともに割合が高くなっています。
- 5分前に自分が何をしていたか思い出せない一般高齢者は4.8%、軽度認定者は18.9%となっています。

問4-(10) [問4-(10)] 今日が何月何日かわからない時があるか



問4-(19) [問4-(19)] 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか



- その日の活動を自分で判断できるかでは、一般高齢者の0.5%、軽度認定者の2.6%が「ほとんど判断できない」と回答しています。
- 人に自分の考えをうまく伝えられるかでは、一般高齢者は「あまり伝えられない」(3.2%)、「ほとんど伝えられない」(0.6%)となり、軽度認定者は「あまり伝えられない」(8.7%)、「ほとんど伝えられない」(2.0%)となっています。

